

河川基金助成事業

「機関庫の川から学ぶ自分達の生活と 自然環境とのつながり」 報告書

助成番号：2023 - 7214 - 006

北海道帯広市立豊成小学校

校長 氏 名 平野 司

2023 年度

助成番号	助成事業名	学校名				
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校				
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	1学年(84人)	主たる教科	生活科			
河川教育の目標	水辺での <u>体験活動</u> を通じて、 <u>探究的な見方や考え方を育む</u> 。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、 <u>恵まれた環境を守ろう</u> とする見方や考え方を育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
[内容] - 生活科「いくぞ！がっこうたんけんたい」では、学校の裏を流れる川が「機関庫の川」という名前であることを知るとともに、春の自然を観察しながら、同時に守らなければいけない川での約束やルールを知った。 - 生活科「げんきにそだて わたしのはな」では、前年度の6年生に作製してもらった「ザリガニ堆肥」を活用し、枝豆の栽培活動を行った。 - 生活科「なつとなかよし」では、初めてのライフジャケットを着用し、機関庫の川に入って川遊びを楽しんだ。帯広北高等学校の協力の基、40名の生徒がグループのリーダーを担い、安全面の配慮や学習のサポートを行った。 - 生活科「ふゆとなかよし」では、冬の機関庫の川の様子を探検をし、観察カードに振り返りを記入した。 [成果] - 季節によって変わる機関庫の川を観察し、川や生き物の様子に変化する様子に気付くことができた。「ふゆとなかよし」では、連日氷点下となる十勝ならではの氷や雪などの冬を感じながら、驚いたことや不思議に思ったことを観察カードに記す姿が見られた。 - 川や生き物と楽しくかかわる姿が見られた。川に入ることをためらっていた児童も、友達に励まされたり手を引かれたりしながら、水と触れ合うことができるようになる姿が見られた。また、帯広北高等学校の生徒がグループの振り返りに参加し、環境を守ることや生き物を大切にすることの視点の深まりが見られた。						
学びの創意工夫点	- 継続した観察・記録を活用した授業展開 1年生の児童と機関庫の川との出会いを大切に。興味や関心を広げていくことができるように、季節ごとに継続した川の観察を行った。観察記録カードを活用した発表会を開き、気付いたことや不思議に思ったことを表現する時間を確保した。 - 対象学年間の学習のつながり 2年生「みんな生きている」の単元で、機関庫の川の生き物と親しむ活動につなげていく。					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	- 学校裏を流れる機関庫の川を、「身近な川」として認識し、次年度以降の川とのかかわりを楽しむ姿が見られる。 - 川の生き物に興味をもち、校内の水槽で飼育しているサケの稚魚や二ホンザリガニの様子を観察したり、エサをあげたりとお手伝いをする姿が見られる。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援の概要	水辺体験学習の活動は、近隣の帯広北高等学校の高校生にボランティアとして活動協力をいただいている。今年度は、引率の先生及び40人の生徒と一緒に機関庫の川に入り、学習補助の協力をしていただいた。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	観察記録カード (廊下に掲示)			テレビモニタに観察記録カードを 投影した発表会		
今後の課題・展開						
- 四季によって変化する機関庫の川の観察を継続しながら、児童が気付いたことや不思議に思うことを表現する時間をしっかり確保していきたい。<u>小さなつぶやきから思考を広げる教師側の言葉掛け</u>が重要である。 - 今年度は、本校が長く続けてきた高校生ボランティアとの活動を再開・実施することができた。機関庫の川を媒体として、<u>人間関係形成・社会形成能力</u>を育てる学びとして継続しつつ、帯広北高等学校との連携を密にし、今後の取組の展開を検討していきたい。						

河川教育計画書【複数学年1年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり					学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006												
2.河川教育の目標		水辺での体験活動を通して、探究的な見方や考え方を育む。 自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。																							
3.育成したい資質・能力		自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。																							
4.学年／人数		第1学年／89人																							
5.単元構想																									
月		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3	
単元目標		単元名：いくぞ！がっこうたんけんたい				単元名：げんきにそだて わたしのはな①				単元名：なつとなかよし				単元名：げんきにそだて わたしのはな②								単元名：ふゆとなかよし			
		機関庫の川の周りの様子を観察しよう				種をまいて、世話をしよう				機関庫の川に親しみ、楽しかったことや見つけたことを紹介しよう				命のつながりを感じて食べよう								ふゆならではの遊びを体験し、季節の違いを感じよう			
		主たる教科：生活 関連教科：国語 2時間				主たる教科：生活 関連教科：国語・道徳 4時間				主たる教科：生活 関連教科：国語・図工 4時間				主たる教科：生活 関連教科：国語 2時間								主たる教科：生活 関連教科：国語・図工 4時間			
主な学習活動		周辺環境の観察 ・学校の裏を流れる川が「機関庫の川」であることを知る。 ・川で学習する時の約束事や危険を知る。 ・機関庫の川のまわりを観察する。 (水の流れ、周りの植物、生き物など)				環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った有機肥料を活用し、作物(枝豆)の栽培を行う。 ・なぜ、有機肥料を入れるのか、どのように枝豆ができていくのかを考える。				川の遊びの体験・生き物の観察・駆除 ・機関庫の川に入り、川の流れを体感、冷たさや水圧、周囲の草花や川底の石、土の様子などを五感で知る。 ・帯広北高等学校の生徒とともに川に入り、安全な川遊びについて知る。一緒に見つけたり、捕まえたりした生き物を観察し、記録する。 ・外来種であるウチダザリガニの駆除を行う。 ・見つけたものや楽しかったことを交流し、発表する。				環境サイクルの実感 ・機関庫の川で駆除したウチダザリガニで作った有機肥料を活用して野菜を育てたことを確認する。 ・ザリガニ堆肥は入った畑で収穫した作物(枝豆)を食べることで、自分達の命のつながりを実感する。								氷のお面作り ・雪や氷と親しむ活動の中で、夏には川遊びをしたことを思い出し、季節の違いを感じる。 ・季節による水の変化について関心をもち、冬の機関庫の川の様子を想像する。			
		季節によって、川や生き物の様子が変化していることに気付くことができる。		自分たちの身近にある「川」の存在を知ること、興味や関心を広げ、主体的に学ぶ力を身に付ける。		目的を理解し、周囲と協力しながら主体的に活動している。		自分の生活と身近な自然のつながりをとらえることができる。		目的を理解し、周囲と協力しながら川と生き物と主体的に関わるができる。		高校生とともに活動することで、良好な人間関係を形成する力を身に付ける。先輩に憧れ、なりたい自分を思い描く。		学習したことを絵や文で表現することができる。		自然の恵みや命の大切さを感じ取り、これからの自分の生活に生かそうとする。				目的を理解し、周囲と協力しながら主体的に活動している。		自分の生活と身近な自然のつながりをとらえることができる。			
評価の観点		人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力																							

河川教育 学習活動報告書【複数学年1年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり					学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006	
2.実際に行った単元構成 注)活動の様子を記述し写真を添付してください。														
月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
学習活動の結果	単元名:いくぞ！がっこうたんけんたい		単元名:げんきにそだて わたしのはな①		単元名:なつとなかよし		単元名:げんきにそだて わたしのはな②		単元名:ふゆとなかよし					
	・学校周辺を観察する中で、裏を流れる川が「機関庫の川」であることをみんなで確認した。 ・川での守らなければいけない約束やルールを学んだ。		・農園の土に「ザリガニ堆肥」を混ぜ、枝豆を育てることで、土の栄養について考えた。		・帯広北高校の協力をいただき、身近な川である機関庫の川に入って川遊びを楽しんだ。 ・生き物の観察を行い、楽しかったことや発見したことを交流した。		・学校農園で育てた枝豆を食べることで土の栄養についての効果を考えた。		・十勝ならではの冬の自然（氷や雪）を楽しみながら、感じたことを表現した。					
	主たる教科:生活 関連教科:国語 2時間		主たる教科:生活 関連教科:国語・道徳 4時間		主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 4時間		主たる教科:生活 関連教科:国語 2時間		主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 4時間					
周辺環境の観察①		環境サイクルの実感①		川の遊びの体験・生き物の観察・駆除活動		環境サイクルの実感②		氷のお面作り		周辺環境の観察②				
・学校周辺の春の様子を観察した。その中で、「機関庫の川」の名前を学習する。川があることを知っていた子どもは多いが、名前までは知らない子どもも多い。近隣にある「きかんこの川公園」をつなげて考えることができる子どももいた。 ・教室に戻り、機関庫の川の水の流れや周辺の植物など、発見したことを発表し、交流した。 ・川では守らなければいけない約束やルールがあることを知り、みんなで確認した。 ・夏に川に入って学習することを予習することができた。		・農園の土に、ザリガニ堆肥の「土の栄養」を混ぜること、土の栄養についてを知った。 ・ザリガニ堆肥を混ぜることでどういった違いがあるのかについて予想し合うことができた。みんなで育てた枝豆がどう収穫できるかを考え、学習を続けていく。		・機関庫の川でやってみたいことや見つけたい生き物などを発表し合い、学習の意欲を高めた。また、改めて川の約束事について確認した。 ・川の入る前に、ライフジャケットの大切さ、正しい着け方を事前に学ぶことができた。 ・4年ぶりに帯広北高等学校の生徒と一緒に川に入ることができ、安全面はもちろん、川の様子や生き物について教えてもらったり相談したりできた。 ・機関庫の川に入る児童は、水の冷たさや流れ、深さなど、水と触れ合う感触を確認していた。だんだんと水に慣れていく様子、積極的に活動を始める様子など、様々な場所で見ることができた。 ・新しい生き物を見つけ、歓声があがる子どもたち。「自分達も見つけたい」という思いから、生き物のいそうな場所や捕まえ方を、相談し合う姿が見られた。 ・川遊びの後は、帯広北高の生徒と一緒に、捕まえた生き物をバットに広げ、観察と振り返りをした。生き物の扱い方や生命など、体験から様々なことを感じている姿がうかがえた。 ・今回の学習で見つけたものや楽しかったことを観察記録カードにまとめた。完成後、テレビモニタに投影し、クラスごとに発表会を開いた。		・ザリガニ堆肥を混ぜて枝豆育ててきたことを思い出し、堆肥の効果について、話し合いをした。 ・ザリガニ堆肥が自分達の栄養になっているというつながりについて学習することができた。		・十勝の寒い冬を感じながら、氷や雪を活用した冬ならではの学習を楽しんだ。 ・氷のシャーベットを入れた洗面器の中に、自分達で考えた材料で顔を描いた。数日後、凍ったお面を見た児童は、驚きとともに、作品の完成を喜んでいた。 ・水、雪、シャーベット、そして、しっかりと固まった氷の様子と、水の状態変化を活動の中で体感し、興味や関心をもつ様子が見られた。		・夏に川遊びをした機関庫の川について、冬の様子がどうなっているかを考えた。「凍っている」「生きものはいない」など、夏との違いを予想しながら、機関庫の川へ向かった。 ・雪や氷で覆われながらも、流れている水の様子に驚きの声をあげたり、夏と比べて川の様子が違うことなど、見つけたことを話す姿があった。 ・観察後、教室で観察記録カードに記し発表をした。「氷と水がいつしよになっている」「雪が上がったり下がったりしている」など、冬の機関庫の川を表している様子があった。				
3.得られた成果						4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果								
・四季によって変化する機関庫の川の様子を予想したり、観察を続けたりすることで、川や生き物に対する気付きや不思議に思うことが多方面に広がっている。「冬の川の様子」を描いた観察記録カードに学習のまとめとしての意義がある。						・1年生の児童の川との出会いを大切に扱ったこと、帯広北高校の生徒との川の学習が再開したことで、「機関庫の川が好き」と身近な環境を大切に思う心を例年以上に育むことができた。								
・生き物と触れ合ってきた経験から、校舎内の水槽で飼育するサケの稚魚や二ホンザリガニを日常的に興味をもち、意欲的にエサをあげようとする様子が見られる。						・農園で育てている作物にも、機関庫の川の生き物が関係していることを、1年生なりに知ることができ、命のつながりを感じることができている。								
・水に触れる児童が、友達とのかかわりの中で、励まされ、手を引かれ、川に親しんでいく姿が見られた。生き物と触れ合いでも、帯広北高生や友達の真似をして、勇気を出しザリガニを持つことができた、などの自信が生まれる瞬間も目にすることができている。						・氷点下が続く十勝ならではの冬の遊びを体験しながら、水、雪、氷、シャーベットなど、水の状態変化を体感でき、興味や関心をもつことができている。								

助成番号	助成事業名	学校名				
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校				
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	2学年(100人)	主たる教科	生活科			
河川教育の目標	水辺での体験活動を通じて、探究的な見方や考え方を育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
〔内容〕 - 生活科「大きくそだてわたしのやさい」では、「ザリガニ堆肥」を活用し、野菜の栽培活動を行った。 - 生活科「みんな生きている」では、昨年度の経験を生かしながらライフジャケットを着用し、機関庫の川に入って生き物探しをした。どんな生き物を見つきたいか、どこに棲んでいるかなどの予想をたてて、活動中にもアイディアを試したり、相談したりすることを大事にしていた。捕まえた生き物は、夏の間、校舎内の水槽で飼育した。観察カードに記し発表や交流を行った。 〔成果〕 「ザリガニ堆肥の効果」を感じながら植物の成長を知る姿が見られた。 - 川底や川岸の様子から生き物がどこに棲んでいるかを予想したり、どのような捕まえ方がよいかアイディアを試したりするなど探究的な活動につながる姿が見られた。活動中は友達と相談・協力しながら、主体的に取り組む姿が見られた。今年度は、帯広北高等学校の生徒がグループの振り返りに参加することで、環境を守ることや生き物を大切にするものの視点の深まりが見られた。 - 生き物を捕まえた後、観察の時間を確保し、たくさんの感覚で感じたことを伝え合う姿が見られた。生き物の体と人間の体のつくりについて、比較し考える発言などもあった。その後も水槽で飼育し、観察する児童が見られた。 - 記した観察記録カードを学級内で発表し、考えたことを発表や交流をすることができた。						
学びの創意工夫点	- 事前・事後の活動も大切に了一連の授業展開 事前学習での予想や話し合いが、意欲的な体験活動につながり、また採捕後の観察が川や生き物への興味を高め、その後の活動へとつながる。 - 対象学年間の学習のつながり 3年生の総合的な学習の時間「機関庫の川と友だち」での、自己の課題を設定し解決する活動へとつながっていく。低学年の学習が、環境保全の考え方や郷土を愛する心の育成へ発展する。					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	- 生き物に触れることで感じた不思議や発見を交流し伝え合う姿が見られた。<u>生き物の体のつくりや生命の不思議への興味や関心</u>を高める様子が見られた。 - 校内の水槽で飼育しているサケの稚魚や二ホンザリガニの様子を観察したり、エサをあげるお手伝いをしたりする姿が見られる。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援の概要	水辺体験学習の活動は、近隣の帯広北高等学校の高校生にボランティアとして活動協力をいただいている。今年度は、引率の先生及び40人の生徒と一緒に機関庫の川に入り、学習補助の協力をしていただくことができた。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	観察記録カード (廊下に掲示)			テレビモニタに観察記録カードを 投影した発表会		
今後の課題・展開						
- 児童が気付いたことや不思議に思ったことをそのままにせず、主体的に調べる探究の心へつなげていくことが重要である。<u>小さなつぶやきから思考を広げる教師の言葉掛け</u>が重要である。 - 今年度は、本校が長く続けてきた高校生ボランティアとの活動を再開・実施することができた。機関庫の川を媒体として、人間関係形成・社会形成能力を育てる学びとして継続しつつ、帯広北高等学校との連携を密にし、今後の取組の展開を検討していきたい。						

河川教育計画書【複数学年2年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり					学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006	
2.河川教育の目標		水辺での体験活動を通して、探究的な見方や考え方を育む。 自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。												
3.育成したい資質・能力		自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。												
4.学年／人数		第2学年／84名												
5.単元構想														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
単元目標	単元名：大きくそだてわたしの野さい 川のめぐみを活用して、種や苗を植えよう 主たる教科：生活 関連教科：国語 3時間			単元名：みんな生きている 機関庫の川に棲む生き物を捕まえて観察しよう 主たる教科：生活 関連教科：国語・図工 7時間			単元名：大きくそだてわたしの野さい 命のつながりを感じながら、実った野菜を食べよう 主たる教科：生活 関連教科：国語 4時間			単元名：みんな生きている 冬の機関庫の川の様子を観察しよう 主たる教科：生活 関連教科：国語・図工 2時間				
	主な学習活動													
	評価の観点													
人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力														

河川教育計画書【複数学年2年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり					学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006	
2.実際にを行った単元構成 注)活動の様子を記述し写真を添付してください。														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
学習活動の結果	単元名:大きくそだてわたしの野さい ・自分たちの育てる野菜の土に、「ザリガニ堆肥」を混ぜ、土の栄養について考えた。 主たる教科:生活 関連教科:国語 3時間			単元名:みんな生きている ・機関庫の川で生き物を見つけ、協力して捕まえて、観察学習をした。 ・観察して感じたことや気付いたことを観察記録カードにまとめ発表や交流をした。 主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 7時間			単元名:大きくそだてわたしの野さい ・命のつながりを感じながら、実った野菜を食べながら、ザリガニ堆肥の効果を考えることができた。 主たる教科:生活 関連教科:国語 4時間			単元名:みんな生きている ・夏に学習した機関庫の川をふり返り、冬の機関庫の川の様子を観察した。 主たる教科:生活 関連教科:国語・図工 2時間				
	環境サイクルの実感① ・自分の育てる野菜の土に、「土の栄養」を混ぜること、昨年度の6年生が作ってくれた機関庫の川のウチダザリガニを使ったものだというのを改めて確認した。 ・ザリガニ堆肥を混ぜることでどんな違いがあるのかを考え、話し合うことができた。野菜ができるまでの様子を考え、活動を続けていく。 			生き物の観察・採捕・駆除 ・1年生のときには、どんな生き物を捕まえたか、今回はどのようにして生き物を見つけ捕まえるかを予想したり、考えを出し合ったりする話し合いを丁寧にいった。 ・川での学習には危険が伴うこと、そのための川での約束事やライフジャケットの大切さについて、毎年川の学習のたびに確認していく。 ・4年振りに帯広北高等学校の生徒の協力の基、機関庫の川の生き物を捕まえたり、観察したりすることができた。安全面はもちろん、川の生き物の採捕の補助、グループでの振り返りにおける深まりなど、たくさんのサポートをもらうことができた。 ・見つけた生き物の名前を確認しながら活動を進めることができた。 ・捕まえた後は、テラスでじっくりと観察することができた。1年生のときに学んだことを思い出しながら、学習を進めることができ、より生き物と真剣に向き合う姿が見られた。 ・今回、2年生が捕まえた生き物は、しばらく校舎内の水槽で飼育し、観察をしてきた。 ・教室に戻った後は、観察記録カードにまとめ、クラスで発表や交流を行った。生き物の様子をよく記憶して、学習の振り返りをすることができた。			環境サイクルの実感② ・ザリガニ堆肥が含まれている土を使ってが作物を育てていることを実感しながら世話を続け、効果を感じることができた。 ・機関庫の川の栄養が入っていることを実感し、自分達の栄養につながっていることについて学ぶ姿があった。  			機関庫の川の観察 ・夏に学んだ機関庫の川の様子が冬にはどういった様子になっているかについて、昨年の学習を基に、観察を進めることができた。 ・「生き物が棲んでいるところが見られた」「3年生の川の学習が楽しみ」など、現在の川、これからの川の様子を一生懸命に学ぼうとする様子が見られた。 ・校舎内の水槽で飼育しているサケの稚魚を春に放流することについて確認し、来年度の学習の見通しを立てることができた。				
3.得られた成果 ・昨年度の学習や事前学習での十分な話し合いが、今回の水辺での活動に生かされている。児童が自分達で考えた方法を試したり、計画を変えたりしながら活動を主体的に進める様子が見られた。 ・帯広北高等学校の生徒との交流を通して、生き物の観察や学習の振り返りに深まりが見られた。多くの感覚を使って生き物の様子を感じ取って話し合う姿があった。他の生き物との比較をしながら、水中の生き物の生態を考えていた。														
4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果 ・1年生のときの水辺での学習の建研を思い出し、自信をもった子どもたちが意欲的に学んでいる姿が見られた。生き物の捕まえ方や生き物の生態、交流の仕方など、経験に基づいて予想や計画を立てることができている。 ・私たちの身近に流れる機関庫の川には、多くの生き物がいること、海とのつながりについて、昨年度より考えを深めることができている。来年度の学習の見通しをもち、サケの稚魚放流の意義についてしっかり予習をすることができた。														

助成番号	助成事業名		学校名			
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校			
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	3学年(120人)	主たる教科	総合的な学習の時間			
河川教育の目標	水辺での体験活動を通じて、探究的な見方や考え方を育む。自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
[内容] - 学校内の水槽で育ててきたサケの稚魚を機関庫の川へ放流した。その後、水槽内の生き物の飼育観察活動を行った。 - 総合的な学習の時間「機関庫の川と友だち」では、「機関庫の川の博士になろう」を合言葉に、生き物調査や水質調査などの活動に取り組んだ。機関庫の川の現状や、生き物の環境など多角的な視点から川を知り、さらに機関庫の川のためにそれぞれが興味をもった課題を調べてきた。 - 同じ課題をもつ児童でグループを作り、調査活動や調査方法の準備を進め、2月下旬に報告会を行った。 [成果] - 自然環境の現状について客観的に調査をする方法があることを知り、意欲的に調査活動に臨む姿があった。さらなる疑問が生まれたり、次に調べてみたいことが出てきたりする様子が見られた。 - 水辺体験学習を実施し外来種の存在に気付くことができた。身近な環境に問題意識もつ児童の姿が多く見られた。この学習を基に、環境とのかかわり方を知り、主体的な活動を進め、追究したい課題をもつことができた。 - 活動の目的から外れないよ、順序立てて話し合ったり分担して活動したり、仲間と行う課題解決活動のよさを学ぶことができた。また、伝える相手をイメージしながら相手意識をもつ活動となるよう心掛けた。報告会では、川の学習でお世話になった方々を招き、グループ毎に役割分担をしながらタブレット端末での発表することができた。						
学びの創意工夫点	- ポートフォリオを活用した授業展開 ワークシートに学びの足跡を残すことで、調べてみたいことややってみたいことを蓄積することができ、課題設定や自分自身と環境とのかかわりを考えることにつなげた。 - グループでの課題解決活動 「機関庫の川のためにしたいこと」という目的からぶれないよう主体的なグループ活動を計画的に進めた。まとめの発表会や資料作りにタブレット端末を積極的に活用した。 - 対象学年間の学習のつながり 低学年での川遊びの経験が、身近な自然環境を多角的に捉えて自分達と環境とのかかわりを考えることにつながる。この経験が、4年生での理科「地面を流れる水のゆくえ」、社会科「自然災害からくらしを守る」で、流域の考えを形成し、防災の考え方へとつながっていく。					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	- 身近な機関庫の川を多角的に捉え、現状に、様々な課題があることを知り、自分達にできること、川のためにしなければいけないことについて真剣に考える姿が見られた。 - 近隣の保育園の園児・高校の生徒に、機関庫の川のことを伝えたいと、絵本や紙芝居を作ったり、環境ポスターを配付したりした。伝える相手を意識して活動するよさを感じていた。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援の概要	サケの稚魚放流には、地域の専門家と「帯広サケの会」に協力をいただいている。川の調査活動には、北海道開発局帯広開発建設部、NPO法人「十勝多自然ネット」に協力をいただいた。					
成果発表	成果作品		発表方法			
	絵本紙芝居・スライド		グループでの調査や活動を口頭で発表			
今後の課題・展開						
- 継続した取組が続いているが、児童の思いを大切に活動を進めていくことが重要である。児童が設定した課題に主体的に意欲的に取り組むことができるよう、振り返りを基に、思考を広げるよう働きかけをしたい。 - タブレット端末を活用し、同様な活動に取り組む学校等との対外的な発表や交流の幅を広げていきたい。						

河川教育計画書【複数学年3年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり					学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006												
2.河川教育の目標		水辺での体験活動を通じて、探究的な見方や考え方を育む。 自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。																							
3.育成したい資質・能力		自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。																							
4.学年／人数		第3学年／101名																							
5.単元構想																									
月		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3	
単元目標		単元名：機関庫の川と友だち①						単元名：機関庫の川と友だち②						単元名：機関庫の川と友だち③											
		環境調査をもとに個人の活動計画を立てよう						調査結果と課題設定 自分の立てた計画を実行しよう						学習のまとめと報告会の実施 機関庫の川について学習したことを いろいろな人に知ってもらい、機関庫 の川の未来について一緒に考えよう											
		主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 16時間						主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 21時間						主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会 14時間											
主な学習活動		サケ・ニホンザリガニの繁殖・飼育【通年】 ・機関庫の川を再現した水槽で、専門家のサポートを受けながら、サケとニホンザリガニの繁殖・飼育を行う。・機関庫の川に生息しているサケの仲間や、在来種のニホンザリガニを飼育することで、川や環境保全への関心を高め、児童の探究的な学習の保障につなげる。																							
		オリエンテーション 学習計画を立てる。		調査活動と課題設定 ・機関庫の川と札内川の調査を行う。 (水質調査、流速調査、周辺環境の調査など) ・調査結果をもとに現状を分析し、課題設定を行うとともに、個人(グループ)の学習計画(活動計画)を立てる。				調査結果と課題設定 ・機関庫の川の未来を見つめ、個人やグループで立てた計画を実施し、新たな気付きや課題を見つける。(外来種の駆除活動、清掃活動、環境保全の啓発活動など)						学習のまとめと報告会の実施 ・機関庫の川の学習のまとめをし、保護者や大学の先生、地域や行政を対象に報告会を開く。 (自分たちの活動報告および機関庫の川をより良くしようとするための提案をしたり、課題を伝えたりして、意見やアドバイスをもらい、次年度に引き継ぐ)											
評価の観点		身近にある川について、客観的に調査する方法を知ることができる。		調査活動を通して、川の現状や課題を的確に捉えている。		活動を通して気付いたことをもとに、学習の課題を設定することができる。		継続した観察を通して、生き物の生態や変化をとらえその後の学習に生かしている。		課題の解決策を自分なりの視点や方法で考えることができる。		学習の成果と課題を的確にまとめ、課題解決を目的として、効果的に発信することができる。		目的を認識し、周囲と協力しながら主体的に活動している。											
		人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力																							

河川教育計画書【複数学年3年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり					学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006	
2.実際に行った単元構成 注)活動の様子を記述し写真を添付してください。														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
学習活動の結果	オリエンテーション	単元名:機関庫の川と友だち①					単元名:機関庫の川と友だち②			単元名:機関庫の川と友だち③				
	・サケの稚魚放流を通して、川につながりについ	・身近な川である機関庫の川でどんな調査活動ができるか、どう主体的に関わっていけるか子どもたち同士で疑問をもったり、自分たちの目で確かめたりして、機関庫の川の現状を知ることができた。 ・今置かれている環境について様々な根拠をもって確認する方法があることを知り、調査結果から、それぞれ課題をもつことができた。					・課題を解決するために子どもたち同士でグループを作り、機関庫の川のためにしたい活動を実行した。			・今年度、機関庫の川のためにしてきた自分達の活動をまとめ、ゲストを招き、報告会を開いた。				
	主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会		16時間		主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会			21時間		主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:国語・理科・社会		14時間		
	体験活動と課題設定 「サケの稚魚を放流しよう」	調査活動と課題設定① 「きかんこの川のふしぎをさがそう」		調査結果と課題設定② 「きかんこの川の水をしらべよう」		調査結果と課題設定③ 「きかんこの川の虫をしらべよう」		調査結果と課題設定④ 「きかんこの川の虫をしらべよう」		課題解決活動		調査活動と課題設定		
	・校舎内で育て、飼育してきたサケの稚魚放流を行った。 ・放流後、様々な川を渡って、海に出ることを知り、大型地図を使って、川が海までつながっている様子確かめた。 ・機関庫の川以外の川があることを知ったり、十勝川流域のイメージをもったりする様子が振り返りからうかがうことができた。	・事前学習では、「きかんこの川のはかせになろう」を合言葉とした。自分達が調べてみたいことを探すため機関庫の川の学習を進めていく。 ・低学年で学習してきた経験があるため、川に入ることや生き物を捕まえることには慣れている。こ3年生では、「調べたいことを見つける」という視点で主体的な活動を促した。		・「機関庫の川はきれいなのか」という課題を解決するために、「きれいな水」についておさえ、バックテストを行った。 ・指標と見比べながら結果を予想して話し合った。 ・3つのテストの結果からわかることに感想を加えて発表を行った。調査の後、調べてみたいことが徐々に見つかっていく様子が振り返りからわかった。		・「機関庫の川はきれいなのか」という課題に対して、川に棲む「虫」からアプローチできることを知り、水生昆虫調査をした。 ・石についた昆虫を採取し、昆虫の特徴を話し合い、指標と比較する様子が見られた。 ・機関庫の川に多い昆虫から水のきれいさに気が付いたり、指標に載っていない昆虫に興味をもち、さらに調べたいことを広げる姿が見られた。		・「十勝多自然ネット」をガイドに招き、生き物の調査を行った。 ・グループごとに捕った生き物を分類し、生き物の生態を知った。 ・一番多く捕ることができた「ウチダザリガニ」について、ガイドの方々にその生態を質問したり、多い理由を考え発表をしたりした。 ・各グループの調査結果を発表した。外来種の存在を知り、機関庫の川の現状について問題意識をもった。		・複数の調査結果を通して、機関庫の川の現状を知ることができた。「自分達で調べてみたいこと」や「機関庫の川のためにしたいこと」について、課題を設定し解決していくことにした。学年全体で協力し合い、似た課題をもつメンバーが集まって、グループを作った。 【結成したグループ】 ウチダザリガニを駆除したい班、魚の環境を守りたい班、川のごみを減らしたい班、生き物の紙芝居を作り保育所の子どもに読み聞かせに行く班、ウチダザリガニの食べ方を考える班、近隣の保育園や高校にポスターで外来種について知らせたい班など		・活動の成果発表会を2月下旬に実施した。 ・発表方法は、タブレット端末を使い、「スライド」を作成し行った。 ・今年度は、各グループでタブレット端末を工夫して使う場面が多く見られた。 ・サケの稚魚放流でお世話になっている専門家の方、「十勝多自然ネット」の方々を招き、お礼を伝えるとともに、発表会に対する講評や励ましの言葉をもらうことができた。		
3.得られた成果 ・低学年と違い、3年生では自分達で目的をもって川と関わることとなり、「機関庫の博士になる」という思いを第一に、1年間の活動に取り組むことができた。 ・川の環境について、客観的に調査をする方法があることを知った。調査結果から新たに疑問や関心が深まる様子が振り返りから見る事ができた。 ・友達同士で協働して行う調査活動や、課題解決活動では、メンバーで協力しながら学習することのよさ、成果報告まで友達同士で協力して作り上げるよさなどを実感することができた。これらの経験が、今後のグループ学習活動に生かされている。						4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果 ・低学年での経験を基に、課題意識をもって機関庫の川に関わる活動を年間を通して行うことで、身近な環境として愛着をもち大切にしていきたいという意識をもつことができています。 ・生き物の調査活動から、外来種の存在に問題意識をもち、環境を守ることにに対してどのように取り組もうとするのかを継続して実践することができた。 ・来年度は、子どもたちのやってみたい思いを大切に、新たな取組の実践方法を模索していく1年間としていきたい。								

助成番号	助成事業名	学校名				
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校				
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川・札内川			
対象学年	4学年(89人)	主たる教科	理科・社会			
河川教育の目標	水辺での体験活動を通じて、探究的な見方や考え方を育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
[内容] - 理科「地面を流れる水のゆくえ」では、昨年まで機関庫の川で学習してきたことを結びつけながら、予想を立て観察や実験に取り組んだ。 - 社会科「水はどこから」では、水道出前授業、浄水場見学、下水処理場見学などの体験活動を行うことで、良質な水を作り出す札内川流域の様子を多角的に捉える学習を行った。 - 社会科「自然災害からくらしを守る」では、エールセンターの施設を利用して、札内川の生物調査、水質検査、隊列を組んでの横断体験や川流れ体験などを実施した。さらに、大型地図を用いたアクティビティにより、「流域」の概念を形成し、流域防災の考え方を身に付けた。 - 理科「水のゆくえ」では、自然界を循環する水の様子について、アクティビティを用いて理解した。 [成果] - 昨年度まで行ってきた機関庫の川での学習にこれまでの生活経験を加え結び付けながら、予想を立て観察や実験の方法を考える姿が見られた。 - 十勝川流域の大型地図を用いて、水に見立てたボールがあふれるさまを体感することで、川が氾濫しやすい場所について考えることができた。今年度は、十勝川支流の札内川に行き、機関庫の川で行った調査や検査、体験を実施し、比較検証を行うことができた。また、ハザードマップを活用し水害への備えについても考えることができた。 - 暮らしの中の水が自然界をめぐる様子について、アクティビティを用いることでイメージを膨らませることができた。						
学びの創意工夫点	- 教科横断的な学びを意識した効果的な学習計画 理科および社会での水を取り扱う学習内容に関連をもたせながら、効果的な学習計画を立て、施設見学や出前講座を活用し、<u>自分達の生活とのつながり</u>を考えられるようにした。 - 対象学年間の学習のつながり 3年生までの機関庫の川での活動を想起しながら空間的に範囲を広げ、<u>流域の概念を形成、流域防災の考え</u>を身に付けていく。これは、5年生での理科および社会科での<u>国土の自然条件や土地利用、自然災害の備えの学び</u>へつながっていく。					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	今まで単独で考えていた機関庫の川が、様々な川と合流して流量が増す様子や実際の体験を通して、流域の考え方、氾濫の仕組、比較などをしっかりと理解した。目の前にあるものから、自然界や地球全体の様子など視野を広げ、俯瞰してものを見る面白さを感じる姿があった。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援の概要	帯広河川事務所一日所長体験には、北海道開発局帯広開発建設部の方々に、札内川の調査・体験活動には、北海道エールセンターの方々に協力をいただくことができた。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	絵本紙芝居・スライド			グループでの調査や活動を口頭で発表		
今後の課題・展開						
今回、エールセンターの協力の基、十勝川支流の札内川についての調査・体験活動を進めることができた。今後も、教科横断的な学習のつながりを児童自身で意識し、広い視野で、地域の地形や土地利用、防災などの学習のつながりを認識し、学びを深めていきたい。						

河川教育計画書【複数学年4年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり						学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006												
2.河川教育の目標		身近な自然環境に関心をもち、探究的な見方や考え方を育む。 自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。																								
3.育成したい資質・能力		自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。																								
4.学年／人数		第4学年／121名																								
5.単元構想																										
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3														
単元目標	単元名：地面を流れる水の行方 ・雨水の流れや、水の浸みこみ方は、土の粒の大きさによって違いがあるかを調べよう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 6時間		単元名：水はどこか ・私たちの飲み水がどこからきているのかを知ろう。 ・機関庫の川が流れ込む札内川の水域について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 10時間		単元名：水はどこから（郷土体験学習） ・稲田浄水場（札内川）、十勝川流域下水浄化センターの役割について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 2時間		単元名：自然災害からくらしを守る（バス学習） ・エールセンターを利用し、札内川と機関庫の川との共通点や相違点を調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 2時間		単元名：自然災害からくらしを守る ・風水害が自分達の生活に与える影響と市の取組について調べよう。 主たる教科：社会 関連教科：理科 10時間		単元名：みずのゆくえ ・自然の中をめぐる水の様子をまとめよう。 主たる教科：理科 関連教科：社会 5時間															
	主な学習活動	・水の流れと地面の傾きにはどのような関係があるのか根拠のある予想を立て、観察や実験を通して調べる。 ・土の種類と浸みこみ方にはどのような関係があるのか観察や実験を通して調べる。 ・水の流れや浸みこみ方の仕組みと自然災害や土地利用の関係を考える。		・機関庫の川が流れ込む札内川の水域全体の様子や地形から、その良質な水を作り出す要因を考えるとともに、それらの維持管理などについて、自らの生活と結び付けながら考える。		・稲田浄水場（札内川）と、十勝川流域下水浄化センターの施設を見学して、気付いたことや分かったこと、考えたことなどをまとめ、発表する。 ・取水口や機関庫の川との合流地点を確認することで、これまでの学習とつなげ、自らの生活と結びつけて考える。		・エールセンターの施設を利用して、札内川の生物調査、水質検査、隊列を組んでの横断体験や川流れ体験などを行う。 ・調査や検査を通して、機関庫の川との共通点や相違点に気づき、川の怖さやいざというときの知識について体感し、正しい行動について考える。		・大型地図を利用し、水があふれる仕組みを理解し、どのようなところがあふれやすいかを考える。また、風水害からくらしを守る市の取組について調べ、自らの生活と結び付けて考える。 ・風水害にかかわるニュースなどから、身近な川の氾濫の可能性などに興味をもって調べる。 ・出前授業「親子防災教室」を体験し、防災、減災についての意識を高める。 ・札内川に入り、川の渡り方や安全な流れ方について考える。		・水の三態を理解し、自然界を循環する水の様子について興味をもって調べ、イメージを膨らませる。 ・地球の水を守っていくために、自分達にできることについて考える。														
		評価の観点	他者とかかわり合いながら調べたり、実験をしたりしている。		根拠のある予想をし、結果を分かりやすく記録している。		防災や減災への意欲を高める。		恵まれた自然環境を理解し、地域に対する誇りをもち、その環境を保全・維持していこうと考えている。		自分で得た情報から、その要因や根拠を探究している。		施設見学やそこで働く人の話から、課題解決のための情報を収集し、興味のあること、考えたことについてまとめ、表現している。		調べたことから課題を見だし、自らの生活と関連付けて考えている。		調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしと結びつけて考えたことをまとめ、表現している。		札内川での体験から、防災や減災について考えたことを表現している。		調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしと結びつけて考えたことをまとめ、表現している。		防災教室での体験から、防災や減災について考えたことを表現している。		調べて得た情報を整理し、自分たちのくらしを結び付けて考えたことをまとめ、表現している。	
人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力																										

河川教育計画書【複数学年4年生】

1.助成事業名

機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり

学校名

帯広市立豊成小学校

助成番号

2023-7214-006

2.実際にを行った単元構成

注)活動の様子を記述し写真を添付してください。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
学習活動の結果	單元名:地面を流れる水の行方 ・水の浸み込み方や雨水の流れ方について、予想を立て、 主たる教科:理科 関連教科:社会 6時間	單元名:水はどこから ・札内川流域全体の様子や地形から、良質な水を作り出す要因を捉え、またその維持管理について、自分達の生活とのつながりを考えながら学習した。 主たる教科:社会 関連教科:理科 10時間	單元名:水はどこから(郷土体験学習) ・帯広市水道課の出前授業、稲田浄水場及び十勝川流域浄化センターの見学を行い学習を深めた。 主たる教科:社会 関連教科:理科 2時間	單元名:自然災害からくらしを守る(バス学習) ・エールセンターを利用し、職員の方々の指導により札内川と機関庫の川との共通点や相違点を調べることができた。 主たる教科:社会 関連教科:理科 2時間	單元名:自然災害からくらしを守る ・アクティビティを通して流域の考え方を認識し、水があふれるところはどんなところかについて考えた。 ・「親子防災教室」につなげ、水害への備えや 主たる教科:社会 関連教科:理科 10時間	單元名:みずのゆくえ ・自然の中をめぐる水の様子をまとめることができた。 主たる教科:理科 関連教科:社会 5時間						
	課題設定・実験検証・まとめ① ・昨年までの機関庫の川での学習、今までの生活経験とを結び付けながら、水の流れ方や浸み込み方の予想を立て観察や実験の方法を考えることができた。 ・雨の日には、屋外に出て学校の駐車場の地図の傾きや、雨水の流れ方を観察することができた。 ・今後の学習のつながりを見据えて、自然災害や土地利用について予想しながら学習を進めた。	課題設定・実験検証・まとめ② ・帯広の良質でおいしい水が作られる要因について、これまでの学習から予想して考えることができた。 ・飲料水だけでなく、帯広の農業や加工業が発展していることを知り、身近な川を含めた自然環境を大切にしたいという思いをもつことができた。	課題設定・実験検証・まとめ③ ・帯広市水道課による「水道出前授業」では、安全でおいしい水が届けられるまでの仕組みやその維持管理にかかわる努力について知り、自分達の恵まれた環境に感謝する気持ちをもつことができた。 ・稲田浄水場には徒歩で見学に行き、札内川の水をひく仕組みについて詳しく知ったり、身近に帯広市の水を作り出す施設があることについて改めて知ることができた。 ・十勝川流域浄化センターでは、排出した下水を川に戻すまでの仕組みを知り、生活の中で自分達にできることを考える姿があった。	課題設定・実験検証・まとめ④ ・エールセンターの施設を利用して、札内川の生物調査、水質検査、隊列を組んでの横断体験や川流れ体験などを行い、機関庫の川で学習した内容との比較・検証を行うことができた。 ・様々な体験活動を通して、川の怖さやいざというときの知識について知り、正しい行動について学年全体で考えることができた。	課題設定・実験検証・まとめ⑤ ・昨年度、北海道開発局帯広開発建設部に作成していただいた、10メートル四方の大型地図を利用し、水があふれる仕組みを実際に体を使いながら理解を深め、どのようなところがあふれやすいかを視覚的に考えることができた。また、風水害からくらしを守る市の取組(ハザードマップ)について調べ、自らの生活と結び付けて考えることができた。 ・出前授業「防災教室」を親子で実施することで、多くの世代で体験し、防災、減災についての意識を深め交流していくことができた。 ・今年度は、十勝川支流の札内川に入った経験を活かし、より広い視野で河川同士のつながりについて学習を進めることができた。	・川で学習してきたことを基に、水の三態を理解し、自然界を循環する水の様子について興味をもって調べ、イメージを膨らませることができた。 ・地球の水を守っていくために、自分達にできることについて考えることができた。						
												

3.得られた成果

・屋外に出て実際に水の流れを自分の目で見ることで、大型地図の上を歩いて流域を理解することなどが、4年生の児童にとって有効であった。
・昨年度、機関庫の川で学習してきたことを、札内川でも実験検証を行うことで、十勝川支流全体のつながりを意識しながら学習を進めることができた。4年生において、広い視野で河川教育を進めることができたことが成果である。

4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果

・3年生までの身近な川とかかわりから、十勝川流域まで視野を広げるために、昨年度で作成していただいた「大型地図」の活用、札内川での学習が、効果的に実を結んだ学習となった。今年度の実践を4年生の一連の学習に活用していけると考える。流域の考え方を認識するにあたり効果的に学習することができる「大型地図」については、他学年でも様々な教科で有効活用を進めていきたい。
・社会と理科を横断しながら、「流域の考え方」と「自然災害の備え」について学びを重ね合わせ、積み上げていく学習計画を進めることができた。

助成番号	助成事業名		学校名			
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校			
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	5学年(115人)	主たる教科	理科			
河川教育の目標	水辺での体験活動を通じて、探究的な見方や考え方を育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
[内容] - 理科「植物の発芽と成長」、家庭科「ゆでて食べよう」および総合的な学習の時間「十勝の農業の農業を体験しよう」では、卒業生が作ってくれたザリガニ堆肥の効果について検証することができた。 - 理科「流れる水のはたらき」では、実験の中で流れる水の三作用を理解した。また、北海道開発建設部帯広河川事務所で作成していただいた資料及び十勝川流域の起伏地図を用いた実験で、防災対策や水害のメカニズムを学んだ。 [成果] - 植物の栽培活動に活かされるウチダザリガニの効果を検証することで、条件を揃え比較する見方や考え方を身に付けた。 - 流域の起伏地図を用いたモデル実験を行ったことで、水害のメカニズムについて児童が理解し、自分達の生活とつなげる学習に取り組んだ。また、北海道開発建設部帯広河川事務所で作成していただいた資料を基に、様々な防災対策を知り、今後私達にできる災害からくらしを守る取組を考えた。 - 社会科「自然災害を防ぐ」「私たちの生活と森林」「環境を守る私たち（水質汚濁）」の学習では、3～4年生での学習とのつながりを思い出し、自分達の生活とつなげて考える姿が見られた。						
学びの創意工夫点	・<u>教科横断的な学びを意識した効果的な学習計画</u> 理科および社会での地形や治水・利水、気候や自然災害などの学習内容の関連を意識し、効果的な学習計画を立て、<u>自然環境と自分達と生活とのつながり</u>を考えられるようにした。 ・<u>対象学年間の学習のつながり</u> 4年生での<u>流域の概念、流域防災の考え</u>からさらに視野を広げ、<u>国土の自然条件や土地利用、自然災害の備えの学び</u>につながる。また、理科での「植物の育ち」、総合的な学習の時間での栽培活動を通して、<u>ザリガニ堆肥の効果について検証</u>をし、次年度の堆肥づくりに向けて、活動への意欲を高めていく。					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	・ザリガニ堆肥の効果を意識しながら比較検証を続けることで、条件を揃え比較する理知的な見方や考え方を身に付けた。 ・十勝川流域を模した起伏地図で実験を行うことはイメージを膨らませやすく、水害のメカニズムを詳しく知ること防災・減災についてより身近に考えることができた。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援の概要	北海道開発建設部帯広河川事務所のご協力の基、十勝川流域の概要説明や水害のメカニズム、河川事業の説明をいただくことができた。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	絵本紙芝居・スライド			グループでの調査や活動を口頭で発表		
今後の課題・展開						
・水害のメカニズムから流域を意識した防災・減災へと思考をつなげることができた。今年度は、身近な河川事業の説明を基に、洪水被害をなくすにはどうすればよいかについて考える授業を展開した。今後も、支援者の協力をいただきながら、土地利用や治水について、自分らしい考えを導き出せるような児童を育てていきたい。						

河川教育計画書【複数学年5年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり						学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006											
2.河川教育の目標		身近な自然環境に関心をもち、探究的な見方や考え方を育む。 自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。																							
3.育成したい資質・能力		自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。																							
4.学年／人数		第5学年／89名																							
5.単元構想																									
月		4		5		6		7		8		9		10		11		12		1		2		3	
単元目標		単元名:植物の発芽と成長		単元名:メダカのたんじょう		単元名:十勝の農業を体験しよう				単元名:流れる水のはたらき						単元名:自然災害を防ぐ(風水害の取組)									
		ウチダザリガニを使った有機肥料の効果を検証しよう。		生物の共通性、多様性の学びから、外国から持ち込まれた生物について考えよう(外来種)。		ウチダザリガニを活用した有機肥料を生かし、農園での栽培活動しよう。				川の上流と下流の川幅や水の流れの速さ、河原の石の形や大きさなどを調べよう。 流れる水の速さや量が変わること起こる災害があることや、人々が災害からくらしを守る取組について考えよう。 十勝川支流合流部において、洪水被害をなくすにはどうすればよいか考えよう。						風水害はどのような時に起こり、被害を減らすためにそのような取組があるかを調べよう。									
		主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 4時間		主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 1時間		主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:理科 12時間				主たる教科:理科 関連教科:社会 11時間						主たる教科:社会 関連教科:総合的な学習の時間 4時間									
主な学習活動		・機関庫の川で駆除したウチダザリガニを活用した有機肥料の効果を検証し、データをまとめる。(インゲン豆の観察)		・生物の多様性を脅かす外来種について知り、身近な外来種問題を考える。		・野菜の栽培方法を学ぶ中で、ウチダザリガニを使った有機肥料の効果的な活用方法について知る。(農家の方からの指導) ・十勝の農業と、水環境を含めた様々な自然環境とのかかわりについて学び、その重要性について考える。十勝が「農業王国」と呼ばれる理由やその魅力、可能性などについてまとめ、発信する。				・流れる水と地面の様子、水の量が変化した時のはたらきについて予想や仮説をもち、実験して調べる。 ・機関庫の川の様子から浸食・堆積・運搬についてとらえ、それを護岸や防災など、自分の生活とのかかわりに広げて考える。 ・売買川や札内川、十勝川などで、実際に取り組まれている河川事業を知り、自分の生活とのかかわりに広げて考え、洪水被害の対策について、グループ討論を行						・自然災害の被害の発生状況などから、災害の発生と気候や地形などを関連付けて、その要因を調べる。 ・国や都道府県の防災の取組に着目し、自分達にできる減災について考えを広げる。									
		予想や仮説、実験の結果から、命の連続性を感じるとともに、学習の成果を統計的にまとめている。		調べたことから課題を見だし、自らの生活と関連付けて考えている。		調べたことを生かし、自らの生活と関連付けて活用しようとしている。				ふるさと十勝の自然環境や、産業に対する誇りと愛情をもち、そのよさや課題について、目的をもって発信することができる。		他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。		流れる水のはたらきについて学んだことを、長雨や集中豪雨に伴う川の増水による災害や、防災、減災につなげて考えを深めている。		国内のいたるところで起こっている自然災害について学んだことを、自らの地域の地形や気候、生活と関連付けて考えている。		自らの防災意識を高め、自然災害を減らすことにつながることを考えている。							
評価の観点		人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力																							

河川教育計画書【複数学年5年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり					学校名	帯広市立豊成小学校			助成番号	2023-7214-006		
2.実際に行った単元構成 注)活動の様子を記述し写真を添付してください。														
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
学習活動の結果	単元名:植物の発芽と成長	単元名:メダカのたんじょう	単元名:十勝の農業を体験しよう			単元名:流れる水のはたらき			単元名:自然災害を防ぐ(風水害の取組)					
	・インゲン豆の発芽実験を活用しザリガニ堆肥の効果検証を行った。	・「生物の共通性・多様性」の学びから、身近な外来種問題について考	・十勝の主産業である農業を体験し、地元の産業や恵まれた自然環境に誇りと愛情をもちながら、そのよさについて発信する活動を行った。 ・ザリガニ堆肥の効果について検証をし、水環境を含めた十勝の農業と自然環境とのかかわりについ			・流れる水と地面の様子について、予想や仮説をもち、実験して調べることができた。 ・十勝川流域の模型による氾濫実験を通して、自分達の生活と水害に結び付けながら考えることができた。			・風水害はどのようなときに起こり、減災のためにどのような取組があるかを調べることができた。					
	主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間	4時間	主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間	1時間	主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:理科	12時間	主たる教科:理科 関連教科:社会		11時間	主たる教科:社会 関連教科:総合的な学習の時間		4時間		
	検証実験	問題意識①	野菜栽培活動			課題設定・実験実証・まとめ			問題意識②					
	・ザリガニ堆肥の効果検証のため、条件をそろえた上で、「堆肥あり」「堆肥なし」の成長の様子を比較しながら記録をした。 ・家庭科「ゆでてたべよう」と関連付け、栽培したインゲン豆の味を検証した。味の違いがあり、ザリガニ堆肥の効果を感じていたようである。 ・効果が立証されたことから、この学習を総合的な学習の時間「十勝の農業を体験しよう」につなげていく。	・「外来種」の学びについて、これまで行ってきたウチダザリガニの駆除と結び付けて、身近な環境を守るために自分達がしてきたことを改めて実感した。 ・ウチダザリガニの命が植物の命に受け継がれ、有効活用されるよさを感じ、次年度6年生になって行うザリガニ堆肥づくりへの意欲をもつことができた。	・十勝の農業を体験しながら、自分達が育てた野菜を使ってピザ作りを行うことを計画した。その際に、ザリガニ堆肥を活用し、豊成オリジナルの野菜を作っていくことにした。 ・野菜を栽培する中では、玉ねぎ農家の中村正信さん、JAかわにし青年部の皆さん、ごぼう農家の和田正司さんがゲストティーチャーとして学習に関わってくださった。農業における水と土の重要性、またザリガニ堆肥の効果についてお話をいただき、特に、ザリガニに含まれるチキンキトサンを土に混ぜることの効果については、どの専門家の方からもそのよさを確認していただき、意欲をもって栽培活動を続けることができた。 ・農業で育てた野菜を材料にし、十勝産の材料だけで地産地消のピザを作り、石窯で焼いて食べることもできた。満寿屋パンの杉山正則さんを講師に招き、地産地消の大切さや、農業王国十勝の素晴らしさ、また夢をもって働くよさなどの講話をいただくことができた。			・水の作用に課題意識をもつために、機関庫の川を活用し、水の流れと侵食、堆積の様子を実際に見ながら課題を設定した。その課題を一つ一つ解決しながら、流れる水の三作用の理解を深めていった。 ・北海道開発局帯広開発建設部に製作していただいた十勝川流域の起伏地図を用いたモデル実験を行った。複数の川から水が流れ込むことで起こる水害のメカニズムについて知ることができた。 ・起伏地図を用いたモデル実験ののち、発展的な学習として「十勝川合流部において洪水被害をなくすにはどうすればよいか」について、グループ討議を行った。北海道開発局帯広開発建設部の方々に講師としてお招きし、洪水の映像を準備していただいたり北海道での実際の河川事業の説明をしていただいたりすることができた。その後、子どもたちのグループ交流を進め、オリジナルの河川事業について紹介し合うことができた。			・自然災害について詳しく調べ、発生状況などから気候や地形などに関連付けてその要因を考えることができた。 ・身近にある地域の地形や気候はどうか、自分達の生活と関連付けて考えた。 ・国や都道府県の防災・減災の取組に着目し、自分達にできる減災について考えを交流し合った。					
					  									
3.得られた成果 ・理科での発芽検証実験や外来種の学び、家庭科での調理実習、総合的な学習の時間における「十勝の農業を体験しよう」の学習が、ザリガニ堆肥によって結びついており、一連の学習となって計画されているので児童の学びが積み重なっている。 ・十勝の農業における水と土の重要性については、多くのゲストティーチャーから同様の考え方を学ぶことができた。 ・北海道開発局帯広開発建設部の方々の支援の効果が大きい。今後も積極的にコンタクトをとりながら、協力を仰ぎたい。					4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果 ・理科および社会での、地形や治水・利水・気候や自然災害などの学習内容はどれも関連性があり、効果的な学習計画を立てることで、児童が自然環境と自分達の生活とのつながりを考えることに効果があった。 ・水の作用について課題をもつために、実際に機関庫の川に行って観察することはとても効果的である。 ・北海道開発局帯広開発建設部に昨年度に作製していただいた起伏地図を活用し、水害のメカニズムを考えることができた。また、今年度は講師としてお招きすることができ、北海道における河川事業の説明や十勝川流域の説明をいただけたことは、大変貴重な機会であった。									



助成番号	助成事業名		学校名			
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり		帯広市立豊成小学校			
所在地	北海道帯広市清流西1丁目1番地1	対象河川名	機関庫の川			
対象学年	6学年(116人)	主たる教科	理科			
河川教育の目標	水辺での体験活動を通じて、探究的な見方や考え方を育む。 <u>自分達の生活とのつながり</u> を実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。					
育成したい資質・能力	自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。					
学習活動の内容と成果						
[内容] - 全校で駆除してきたウチダザリガニを堆肥化する活動を行った。完成したザリガニ堆肥は、3月の「6年生を送る会」で、5年生以下の在校生へ引き継ぎ、次年度の農園で活用してもらえようと伝えることができた。 - 理科「大地のつくり」では、機関庫の川の礫の様子から、流れる水のはたらきによる地層のでき方について考える学習をした。 - 理科「自然とともに生きる」では、これまで6年間の環境にかかわる学びをつなげて振り返ることができた。 [成果] - 前述の学習で考えた外来種ウチダザリガニの存在、その命についても十分話し合った上で、ウチダザリガニを堆肥化する活動を行った。命を扱う学習という難しい課題を前に、様々な葛藤をもちながらも、6年間の学習のつながりや豊成小学校の伝統を受け継ぐことを意識しながら取り組んだ様子が児童の振り返りから伝わった。 - 十勝でとれた地層のモデルから地層のでき方について考えることができた。機関庫の川をはじめ、堆積の仕方から他の地域との比較について子どもたち同士で考察することができた。						
学びの創意工夫点	- 対象学年間の学習のつながり 理科「大地のつくり」は、5年生の「流れる水のはたらき」と結びつきが強い。「生物どうしのつながり」は、3年生の総合的学習の時間を想起させ、大いに学習に活かすことができる。 - 伝統となっているザリガニ堆肥づくりは、<u>6年間の環境にかかわる学びが機関庫の川によって結びついていることを認識できる活動であり、これから自分が環境とどのように関わって生きていくかを考える機会となっている。</u>					
河川教育を通じて見られた子どもの変容	1か月に及ぶザリガニ堆肥づくりの振り返りには、命のつながりを意識して取り組んだ様子や豊成小学校の伝統を受け継いだ誇りを感じている様子、下級生のために責任と誇りをもって取り組んだ姿が伝わるものが多かった。					
支援者等（複数記入可）						
保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関、博物館、資料館等	関係団体（漁協、農協）等		企業	その他	
支援の概要	帯広で土作りにこだわりを持って農家をされている専門家の方々に、ザリガニ堆肥の有用性について子どもたちにお話をいただくことができた。					
成果発表	成果作品			発表方法		
	絵本紙芝居・スライド			グループでの調査や活動を口頭で発表		
今後の課題・展開						
機関庫の川によって結びついた6年間の環境にかかわる学びを、児童が認識し発信する活動を取り入れたい。卒業を迎える際、これから自分が環境とどのように関わって生きていこうと考えているのか受け止めることが重要である。						

河川教育計画書【複数学年6年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり					学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006			
2.河川教育の目標		身近な支援環境に関心をもち、探究的な見方や考え方を育む。 自分達の生活とのつながりを実感し、恵まれた環境を守ろうとする見方や考え方を育む。														
3.育成したい資質・能力		自分達の生活と環境とのかかわりから、豊かな自然環境とその恵みを認識し、自らの責任や役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現しようとする力。														
4.学年／人数		第6学年／１１５名														
5.単元構想																
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
単元目標	単元名：生物どうしのつながり		単元名：これまでの学習をつなげよう(水循環)		単元名：ウチダザリガニを活用し有機肥料を作ろう			単元名：大地のつくり		単元名：自然とともに生きる(生態系を守る)						
	自然界のつりあいを脅かす、外来種について知り、身近な外来種問題である、ウチダザリガニの駆除について考えよう。		水の流れをたどりながら、水が地球上を循環していることをとらえよう。		こだわりの土作りの話から、外来種の有効活用と、命のつながりについて考えよう。			流水による地層のでき方について学ぼう。		持続可能な社会を創るために、自分達にできることを考えよう。						
	主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 6時間		主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 2時間		主たる教科：総合的な学習の時間 関連教科：理科 6時間			主たる教科：理科 関連教科：社会 15時間		主たる教科：理科 関連教科：総合的な学習の時間 4時間						
主な学習活動	・教科書の一例から、国内における様々な外来種の問題について詳しく調べまとめる。 ・自分達にとって身近なウチダザリガニの問題について、どのようにしていくとよいのかを考える。		・自然界の大きな水の循環をとらえ、人間の様々な水利用についてまとめ、理解を深める。		・理科の学習で学んだ外来種の問題から、身近な外来種であるウチダザリガニの駆除およびその有効活用について考える。 ・外来種の命の重さについても考えながら、次年度の豊成小への「命のプレゼント」として、ウチダザリガニの有機肥料作りに取り組む。 ・下級生に対して、どのような思いを伝えるのかも考えながら活動し、年度末に下級生へ「有機肥料の受け渡し」セレモニーを行う。			・地層の構成物から、地層は主に水のはたらきや火山のはたらきによってできることをとらえ、地面の下がどのようになっているのかを予想し、仮説を立て、その解決の方法について考える。 ・実験の結果から、私たちの住む地域の地層についても、予想し、太古の十勝帯広の様子について思いをはせる。		・空気や水の汚れ、エネルギー問題など、人間の活動が、環境に与える影響についてこれまで学んできたことをもとにしてまとめる。 ・これからも続く自然と人間とのかかわりについて考え、持続可能な社会を創るために必要なことをまとめ、表現する。						
	様々な視点からこの問題について考え、根拠を明らかにしながら、活動に取り組もうとする。		水の循環や人間の営みについて、様々な視点からとらえ、問題意識をもっている。		命のつながりという最も大切なことを意識しながら、協働的かつ主体的に活動することができる。			活動したことをまとめ、下級生に伝え、伝統をつなげていこうという意識をもっている。		他者とかかわり合いながら、調べたり、実験をしたりしている。		実験して得た情報を整理し、自分達の土地の様子と結びつけて考えたことをまとめ、表現している。		人間と自然環境とのかかわりについて、様々な視点からとらえまとめている。		自分の生き方につなげて考えることができる。
評価の観点	人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力															

河川教育計画書【複数学年6年生】

1.助成事業名		機関庫の川から学ぶ自分達の生活と自然環境とのつながり					学校名		帯広市立豊成小学校		助成番号		2023-7214-006		
2.実際に行った単元構成															
注)活動の様子を記述し写真を添付してください。															
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
	単元名:生物どうしのつながり ・生物と環境のかかわりについて自分達の考えを深めることができ 主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 6時間 課題設定・実験検証・まとめ ・生物は周囲の環境とかかわって生きているということ、生物には食べる食べられるという関係があることを正しく理解し、生物と環境とのつながりについて考えた。 ・機関庫の川の生態系を例にして、外来種の存在によって、機関庫の川食物連鎖のバランスが崩れてるかもしれないことや、自分達にできることはないかについて考える学習をした。					単元名:これまでの学習をつなげよう(水循環) ・水の流れをたどりながら、地球上を循環する様子を捉えることができ 主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 2時間 調べ学習とまとめ ・「生物どうしのつながり」や4年で学習した「水のゆくえ」などの学習を想起し、自然界の大きな水の循環を捉え、人間の様々な水の利用についてまとめ、理解を深めることができた。		単元名:ウチダザリガニを活用し有機肥料を作ろう ・全校児童で駆除してきたウチダザリガニを堆肥 主たる教科:総合的な学習の時間 関連教科:理科 6時間 体験活動 ・理科「生物どうしのつながり」の外来種の学びから、生態系を脅かすウチダザリガニの駆除やその有効活用について考えた。 ・生きものの命の重さについても考えながら、6年生として次年度の豊成小学校へ「命のプレゼント」として、ウチダザリガニの堆肥づくりに取り組んだ。 ・振り返りの中には、外来種であるとはいえ命があるということ、命のつながりとともに、豊成小学校の6年間の学習のつながりを考えたり、伝統を受け継ぐ6年生としての誇りと責任を感じたりしているものも多かった。 ・1か月以上にわたり、二日おきの繰り返し作業を続け、発酵がおさまり、においや温度が変化する様子などを観察しながら製作した。		単元名:大地のつくり ・大地のでき方には流水と火山によるものがあることを理解し、自分達の住む地域の 主たる教科:理科 関連教科:社会 15時間 課題設定・実験検証・まとめ ・地層の構成物から、地層のでき方には主に、流水のはたらきによるものと、火山のはたらきによるものがあることを捉え、地面の下がどのようなになっているのかを予想し、仮説を立て、その解決方法を考えた。 ・私たちの住む地域についても予想をし、地層を観察しながら、太古の十勝帯広の様子について考えた。		単元名:自然とともに生きる(生態系を守る) ・これまでの学習をまとめ、持続可能な社会をつくるために、自分達にで 主たる教科:理科 関連教科:総合的な学習の時間 4時間 調べ学習とまとめ ・空気や水の汚れ、エネルギー問題など、人間の活動が、環境に与える影響についてこれまで学んできたことを基にしてまとめた。 ・これからも続く自然と人間とのかかわりについて考え、身近な自然環境と自分の生き方とのかかわりについて考えをまとめた。 ・在校生のために製作してきた「ザリガニ堆肥」を、思いを込めてプレゼントした。			
  															
3.得られた成果						4.河川、水を学習の題材・素材としたことによる効果									
・機関庫の川の生態系について考える活動では、3年生が取り組んでいる水辺学習と併せながら、機関庫の川に生息する生きものの数のデータを蓄積し、より妥当性がある活動になるようにしていきたい。 ・ザリガニ堆肥をつくる活動は、6年生の伝統の学習となっている。今までの学習としっかり結び付けていくことで、その必要性や命に対する思い、誇りや責任など意欲をもって主体的に活動することができた。						・「生物どうしのつながり」の学習を、自分達の自然環境の中で考えることにより、ザリガニ堆肥づくりへと活動がつながり、自然とともに生きる自分達にできることとして在校生にプレゼントを残していく学習の流れができています。 ・今後も、3年生が捕採した生き物の数や、自分達が3年生のときに製作したものが、考えをもつための材料となっている。川を活用した学習を継続していることによる成果であると考えます。									

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学習活動名：なつとなかよし

日 付：9月1日（1～3組）

見られた子どもの姿：

川の学習におけるライフジャケットの大切さをしっかり理解をして着用することができた。川遊びが経験が少ない子どもたちにとっては、川の冷たさや水の流れなど、不安なことがあったようであるが、帯広北高等学校のお兄さんお姉さんが活動に参加したことにより、手を引かれ励まされて、水に慣れていく姿が見られた。生き物を見つけると歓声が上がると、そこにさらなる意欲が生まれ、他の子どもたちも生き物がいそうな場所へ移動し、捕まえ方を一生懸命に考える様子があった。

採捕後は、テラスで生き物をじっくりと観察をした。生き物を触った感触に驚く様子も見られた。生き物にとって、人間の手は熱くて弱ってしまうことを指導者から聞き、みんなで気を付けることができた。高校生を交えた振り返りの場面では、今日の学習でできるようになったことや感じたことを発表することができた。

【子どもたちの感想】

「川にたくさんのいきものがいてびっくりしました。」

「おいさんやおねえさんに、さかなのとりかたをおしえてもらいました。」

学習活動名：ふゆとなかよし

日 付：2月14日

見られた子どもの姿：



冬の機関庫の川は「凍っている」「生き物はいない」など事前の予想をした上で、川に出かけた。機関庫の川は、夏のとくときと変わらず流れる様子があるものの、水の量の違いや凍っているところがあることを自分の目で知ることができた。

たくさんの疑問や発見をして、振り返りの絵日記をまとめることができた。

【子どもたちの感想】

「なつにくらべていきものがないのかな。」

「ふゆのあいだ、ザリガニはどこですごしているのかな。」

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学習活動名：みんな生きている

日 付：9月4日

見られた子どもの姿：

昨年の経験から、ライフジャケットの着け方やペアでの取り組み方もスムーズが見られた。水に入ることをためらう児童も少なくなり、意欲的に取り組む姿が見られた。帯広北高等学校のお兄さんお姉さんたちとの紹介を終え、協力してもらいながら活動を進めることができた。自分達でなんとかしようとする気持ちをもって、生き物を捕まえることができた。

捕まえた後は、観察の時間を確保し、たくさんの生き物との触れ合いを楽しむ時間を設定した。高校生のアドバイスを受けながら、昨年に学習したことを思い出し、グループで発表し合う姿が見られた。

【子どもたちの感想】

「お兄さんやお姉さんにいきもののつかまえ方をおしえてもらいました。」

「ザリガニにはまれないさわりかたがわかりました。」

「くさかぜにたくさん生き物がいました。」



学習活動名：みんな生きている

日 付：3月5日

見られた子どもの姿：

冬の機関庫の川の様子が、夏に観察した機関庫の川の様子と違いがあるかについて学習することができた。昨年の学習を思い出しながら、夏の川との違いを細かな視点で気付く姿が見られた。校舎内で育てているサケの稚魚の様子を見て、「3年生になったら川に放流してあげることが楽しみ。」と話す子どもたちがたくさんいた。

【子どもたちの感想】

2か月後に、地域の専門家の協力を得て、サケの稚魚の放流を知った子どもたちは、どこで放流するかを確認し合い、改めて水槽内にいるサケの稚魚は大切に育てていきたいという意見などが見られた。

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学習活動名：サケの稚魚放流

日 付：4月24日

見られた子どもの姿：

校舎内で育ててきたサケの稚魚を機関庫の川に放流をした。放流後の稚魚がとどまっている様子をじっくり見守る姿が見られた。学級のみんなでどっちに向かうかについて確認しながら学ぶことができた。

昨年度作成した5m四方の十勝川流域大型地図を活用し、サケの稚魚放流の事前学習として、十勝全体の川のつながりについて確認する時間を設定した。機関庫の川からどの川をたどることで海につながっているかについて疑似体験的に学習する貴重な経験をすることができた。

【子どもたちの感想】

- ・サケの赤ちゃんが大きくなって機関庫の川に帰ってくると知って、びっくりしました。
- ・3～4年の長い旅の中で、他の国の海に行って戻ってきて、新しい命が生まれるんだなと思いました。



学習活動名：きかんこの川のふしぎをさがそう

日 付：6月7日

見られた子どもの姿：

「きかんこの川のはかせになろう」を合言葉にした子どもたちは、機関庫の川における課題を探しに出かけた。低学年で学習した経験があるので、川に入ることに抵抗を示す子は少ない。生き物探しも学習の一つではあるが、目的を理解し、川の周りの様子や水の様子など、たくさんの疑問を見つける様子も見られた。子どもたちからあがった疑問は、水について、虫について、生き物について、環境についてである。これらを今後の活動の主としていく。

【子どもたちの感想】

- ・いろいろな魚を見つけたので、それらの名前を知りたい。
- ・ザリガニではないえびのような小さい生き物もいた。
- ・川の中は歩きやすいところや歩きにくいところがあった。

学習活動名：きかんこの川の虫をしらべよう

日 付：6月27日

見られた子どもの姿：



「虫」をテーマとして取り上げ、水生昆虫調査を実施した。

石についている昆虫を採取し、分類しながら昆虫の特徴を確認することができた。

機関庫の川に生息する虫を調べる中で、水のきれいさに改めて気付いたり、知らない虫に興味をもって調べたりし、さらにやってみたいことを広げる姿が見られた。

【子どもたちの感想】

・同じ水生昆虫をたくさん見つけました。石のついているかたまりの中に何か入っている虫をみつけて驚きました。

・石をよく見ると、黄色いたまごがくっついていました。

・虫を調べることで水のきれいさを知ることができ、きかんこの川がきれいなことがわかりました。



学習活動名：きかんこの川の水をしらべよう

日 付：6月27日

見られた子どもの姿：

水生昆虫調査で機関庫の川にはきれいな水に棲む虫が多いことがわかった。今回は、「水」に着目し、パックテストを行った。指標と見比べながら結果を予想して話し合う様子が見られた。3つのテストの結果からわかることについて、調査結果の発表を行った。班によって、また、テストによっては、少し違った結果が表れたことで、なぜそうなったかを交流する様子も見られた。

【子どもたちの感想】

・水のきれいさを調べる方法が色々あることを知りました。

・場所や季節によつての違いがあるのか調べてみたい。

・たくさんの検査をして、機関庫の川がきれいなことがわかりました。



学習活動名：きかんこの川の生き物をしらべよう

日 付：8月21日

見られた子どもの姿：

学習ボランティアの「十勝多自然ネット」の方にガイドをしていただき、生き物の採捕と観察を行った。

改めて網の構え方や生き物のいそうな場所、名前やその由

などを現場で教えていただくことができた。

中庭に戻り、生き物ごとに分類し数を数えた。ウチダザリガニを他の生き物より多い454匹を捕まえ、「ウチダザリガニが多い理由」について考えた。外来種であることや他の生き物への影響があることを知り、機関庫の川の抱える問題に向き合う子どもたちの姿が見られた。

【子どもたちの感想】

- ・ウチダザリガニがどれだけの期間で川にいっぱいすむようになったかを知りたい。
- ・他の魚をたくさん食べてしまうウチダザリガニをたくさんとることができてよかった。
- ・ふりかえりシートにとった生き物の数をまとめて、ウチダザリガニの多さにおどろきました。
- ・いろいろな魚がすめるように、もっと川をきれいにしていきたい。



学習活動名：きかんこの川のために（報告会）

日 付：9月～

見られた子どもの姿：

これまでの調査活動から、「もっと調べてみたいこと」や「川のためにしたいこと」に取り組む学習課題を作った。

児童の調べたいことは、魚や生き物の生態について、ウチダザリガニを捕まえることについて、ウチダザリガニを食べることについて、環境について、他学年や地域の人に川のことを知らせることについてなど、同じ課題をもつ人同士でグループを作り、活動を進めた。

活動の報告会を、お世話になった専門家やボランティアの方々を招き、2月28日に実施した。

今年度は、どのグループもタブレット端末によるスライドで発表し、取り組んだ内容に加え、製作した絵本や紙芝居、ジオラマなどを紹介することができた。

【子どもたちの感想】

- ・これからも機関庫の川のごみ拾いを続けることで環境を守っていききたい。
- ・近くの保育園で機関庫の川にかかわる絵本の読み聞かせをできたことがよい経験だった。
- ・発表の最後に、石垣さんにたくさんほめてくれてうれしかった。今までみんなでがんばってとりくんできてよかった。

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学習活動名：親子防災教室

日 付：8月29日

見られた子どもの姿：

帯広市危機対策課の講師を招き、「親子防災教室」を行った。今回は、子どもたちだけでなく、保護者の方々にも参加していただくことで、親子で洪水と地震にかかわる防災の意識を高めることができた。避難所の場所を確認したり防災倉庫にあるものを使ったりしながら体験活動に取り組むことができた。

【子どもたちの反応や気付き】

普段、見慣れないものやお話に親子で真剣に聞く姿が見られた。体験活動では、子どもだけでなく保護者の参加により、より活気ある雰囲気の中で意欲的に経験している様子があった。



学習活動名：自然災害からくらしを守る（バス学習）

日 付：9月8日

見られた子どもの姿：

エールセンターを利用し、職員の方々の指導をいただきながら、十勝川支流の札内川で、川の学習を実施した。機関庫の川で活動した経験を基に、支流同士の共通点や相違点を子どもたちで交流し発見することができた。

また、札内川の規模と施設の方々の指導のおかげで取り組むことができた隊列を組んでの横断活動や川流れ体験の取組が非常に価値あるものであった。

【子どもたちの感想】

- ・生物調査や水質検査をして、札内川の水もきれいだということがわかった。
- ・機関庫の川だけでなく、十勝川の支流全体がきれいな川や環境だからこそ、十勝川もきれいなんだと思う。
- ・たいれつを組むのが難しかったけど、いざという時のために役立つことができた。川流れのこつをつかめた気がする。





学習活動名：自然災害からくらしを守る

日 付 ：10月4日

見られた子どもの姿：

ボールを雨水に見立てたアクティビティを通して、「流域」の考え方を認識し、水害が起こりやすいところはどんなところかを考える学習を行った。

子どもたちは、渡すスピードや量が変わることでボールを落としてしまったことに気づき、アクティビティでの体感のよさが表れていた。

ハザードマップを活用し、アクティビティの結果と水害が起こりやすいところを比べる活動にも興味をもって取り組み、交流することができた。

【子どもたちの感想】

- ・機関庫の川のような小さい川からつながって十勝川のような大きな川ができあがっていくことがわかった。
- ・川がつながっているところが危ないと思った。ボールを渡す活動をすることで、そのことがよくわかった。
- ・ハザードマップを見たときに、帯広のほとんどのところが水害のひがいにあうことがわかり、普段からの備えが大事だと思った。

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学習活動名：植物の発芽と成長

日 付：4～5月

見られた子どもの姿：

インゲン豆の発芽について条件検証をする際に、「ザリガニ堆肥あり」と「ザリガニ堆肥なし」で成長の様子を比較しながら記録をする学習を行った。葉の色や大きさ、枚数などに着目しながら比較することができた。

学習活動名：十勝の農業を体験しよう

日 付：5月～

見られた子どもの姿：

効果が確認されたザリガニ堆肥を使って、学校農園で様々な野菜を育ててきた。栽培活動の中で、地域の農家の方々とJAかわにし青年部の皆さんが学習に関わり、農業における水と土の重要性について教えていただいた。



また、満寿屋パンの杉山社長をお招きし、それらの野菜を使ったピザ作りを実施し、その味を堪能することができた。

【子どもたちの感想】

- ・ほとんどの野菜を自分で作り、帯広十勝の食材を使ったピザ作りができて、貴重な時間となった。
- ・野菜作りと土作りには、深い関係があることを知った。

学習活動名：流れる水のはたらき

日 付：11月～

見られた子どもの姿：

流れる水と地面の様子について、予想や仮説をもち、実験を通して調べることができた。自分達の生活と水害について考えた後、北海道開発局帯広開発建設部の協力で、十勝川合流部における洪水対策について、子どもたち同士でアイデアを出し合い、アドバイスをもらうことができた。

【子どもたちの反応と気づき】

北海道での河川事業を聞いた上で、自分達の地域の川に合った洪水対策について、タブレット端末で活発に意見交流をする様子が見られた。



助成番号	助成事業名	学校名
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校



学習活動名：ザリガニ堆肥を作ろう

日 付：11月～

見られた子どもの姿：

今年度も、本校で長く取り組んでいる「ザリガニ堆肥」作りを行った。下級生が剔除したウチダザリガニを堆肥に変え、次年度の農園栽培に活かす伝統となっている活動である。同時に、ウチダザリガニの命について最高学年としてじっくりと考えて行うことができる重要な取組である。作業は、約1か月をかけて進め、定期的に間隔を開けながら、スコップで混ぜたり発酵をさせたりする中で、土の状態の変化（においや温度）を観察することができた。

【子どもたちの感想】

・外来種は在来種のすみかを奪ったり、食べたりして、悪い生き物だと思っていました。でも、外来種のほとんどは、人によって連れてこられたものが多く、他の生き物と変わりがないので、駆除をするとしても、責任をもち、大切に生かしていかなければいけないと思いました。

・外来種は、食物連鎖を壊す存在ではあるけれども、大切な命をもった生き物なので、これからも駆除したり堆肥づくりをしたりなど、その活用方法を考えていかなければいけないと思いました。



学習活動名：自然とともに生きる（生態系を守る）

日 付：1月～

見られた子どもの姿：

これまでの学習をまとめ、今後、持続可能な社会をつくるために、自分達に何ができるかについて考える時間となった。

前述の外来種はもちろん、空気や水の汚れ、エネルギー問題など、人間の活動自体が環境に大きく与える影響について学んできた。

在校生のために製作した「ザリガニ堆肥」を、最高学年としての思いを伝えながらプレゼントすることができた。

チーム豊成の力を高め、「潤い」と「勢い」のある学校づくり

Connect

帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信



令和5年6月26日
NO.3 文責

キャリア

「水はどこから」～帯広市水道出前講座～

6月15日（木）帯広市上下水道部から講師を招いて、4年生の「水道出前講座」を行いました。

課題対応能力の育成…自分たちの生活に直結する課題を見つけ、できることを考え実践する力を育みま

4年生は、昨年度校舍裏を流れる機関庫の川で、体験活動や調査活動をしながら、機関庫の川はどんな川なのか。清流なのか。10年後の機関庫の川を想像して、自分にできることを考える学習をしてきました。

この日は、社会科の学習で、機関庫の川が流れ込む札内川の水が、自分たちの暮らしを支えていることを実感し、自分たちの生活の中でできることを考えていくことを目指していました。

稲田浄水場の職員の方が、「札内川は、8回もきれいな水（清流）日本一に選ばれたんだよ。」
「わたしたちの飲んでいる水はもとがきれいなので、殺菌するための薬の量は少ないから、おいしい水なんだよ。」と、校区内に稲田浄水場があることや、そこから水が供給されていることを教えてくださいました。

水源の一部が校内を流れ、近くに浄水場があるなど、本校の児童は、自分たちの問題として考えやすい環境にあり、恵まれていると思います。今年の4年生もこれまでの学習と自分たちの生活とをしっかりと関連付けながら真剣に話を聞くことができました。美味しい帯広の水に誇りをもち、大切に守っていきたいという子どもたちの様子が伺える感想を紹介します。



○台所に天ぷらの油を流すと、下水道管の中で固まってつまってしまうことがわかり、お母さんに教えようと思いました。

○学校や家の水道から出る水は、どこから来ているのかいつも気になっていました。知れて良かったです。

○大人になっても忘れずに、いろんな所で水を大切にしていきたいです。

○世界中で、水道水が飲める国は15か国しかないことがわかりました。飲める水にしてくれている人に感謝しようと思いました。

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect

帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信



令和5年6月30日
NO.4 文責

キャリア

「機関庫の川と友だち」の学習がスタートです。

機関庫の川を学習のフィールドとして、人間関係形成・社会形成能力（他者を理解する力・コミュニケーションスキルなど）や課題対応能力（情報の選択・処理、課題発見、実行力など）を学んでいます。

今年度も豊成小学校のキャリア教育の一環として、3年生の学習「機関庫の川と友だち」の学習がスタートしました。

この学習のねらいは、豊成小学校に隣接している「機関庫の川」を貴重な学習材として活用し、『機関庫の川の未来について地域と共に考えること』にあります。この素敵な環境は、全国的に大変貴重で、これまで長年にわたり河川教育に先進的に取り組んできた実績があります。

3年生は、これまで1・2年生の生活科の学習で機関庫の川の季節を感じたり、生き物のいのちについて考えたりしながら、親しみそして楽しく学んできました。今年度は、今までの川とのふれあいを基に、生き物探しや水質調査、追究したい課題の探究を通して、学んだことを発信していくことを目指します。

今後、学年単位での学習や地域ボランティア、近隣学校との学習など、ここ数年でできなかった学習にも積極的に取り組んでいきます。



- ・きかんこの川にいる生き物の名前を調べてみたい。
- ・川に入るととても冷たかった。何度くらいなんだろう。
- ・今日つかまえたザリガニやヤマメ、ドジョウはどれくらいいるのかな。
- ・きかんこの川は本当にきれいな川なのか調べたい。
- ・きかんこの川の周りの自然について調べたいと思った。
- ・つまかえたドジョウは、買ったばかりのえんぴつぐらいの大きさだった。
- ・生き物のとくちょうをいっぱい調べたい。
- ・ザリガニの「す」ってあるのかな。たまごをどうやってうむのかな。
- ・みんなが発表した生き物以外にすんでいる生き物がいるか調べたい。
- ・ニホンザリガニはなんびきくらいいるのだろう。
- ・きかんこの川ってどうやってできたのだろう。
- ・川のそこに、いっぱい石があったのでふしぎだなあと思った。

3年生の子どもたちは、「機関庫の川の博士」になるために、実際に川に入りながら、不思議に思ったことや調べてみたいことを一生懸命考えていました。川から学んだことを、日常生活や自分たちの未来につなげて学んでいくことを期待しています。

チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect

帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信



令和5年8月31日
NO.7 文責

キャリア「機関庫の川と友だち～機関庫の川の生き物を調べよう」

機関庫の川を学習のフィールドとして、人間関係形成・社会形成能力（他者を理解する力・コミュニケーションスキルなど）や課題対応能力（情報の選択・処理、課題発見、実行力など）を学んでいます。

3年生の子どもたちは、1学期間を通して、たくさんの疑問や課題をもてるよう、実際に、生き物や環境を調べたり、水質検査の実験をしたりなど、機関庫の川をフィールドとして主体的にかかわってきました。

2学期のスタートとなる機関庫の川の調査は、今年度も「NPO法人 十勝多自然ネット」の皆さんにお越しいただき、たくさん



のサポートをいただきながら取り組むことができました。

今年度は、3年生の学年全体を6つのグループに分けて活動をスタートしました。今回は、帯広北高等学校付近まで範囲を広げ、実際に捕まえた生き物の生態や特徴について、ガイドの先生方に詳しく教わることができました。

捕れた生き物の数ですが、ウチダザリガニ454匹、フクドジョウ116匹、ヤマメ17匹、ウグイ・ニジマス5匹、トゲウオ2匹、カジカ・イトウヨ・ゲンゴロウ1匹となりました。圧倒的なウチダザリガニの数に、「ウチダザリガニがたくさんいる理由を知りたい。」「機関庫の川にウチダザリガニがいっぱいいるから、魚が少ないのかな。」などの子どもたちの反応がありました。

今回の学習を基に、これからのゆたかの授業に生かしていきます。

○トゲウオとヤツメウナギがめずらしい生き物だと知りました。トゲウオがとれる川がきれいなことがわかりました。

○ガイドの妹尾さんにザリガニの種類やオスやメスの見分け方などを教えてもらいました。魚がニョルニョルしていてさわるのが難しかったです。

○友達と初めてニジマスをとったことが心に残りました。フクドジョウが口をパクパクしていたところがかっこ良かったです。

○機関庫の川のために、ニホンザリガニを増やしたいと思いました。

○ガイドの田中さんにザリガニのとり方を教えてもらいました。2匹き同時にとれてうれしかったです。

○フクドジョウには歯がなくて、ヤマメには歯があること、ニジマスとヤマメのもようのとくちょうなどを教えてもらいました。



チーム豊成の力を高め、「潤いと勢い」のある学校づくり

Connect



帯広市立豊成小学校 キャリアプロジェクト通信

令和5年12月1日
NO.10 文責 河村

キャリア 生き物どうしのつながいを考え、ザリガニ堆肥を作る！

機関庫の川を学習のフィールドとして、人間関係形成・社会形成能力（他者を理解する力・コミュニケーションスキルなど）や課題対応能力（情報の選択・処理、課題発見、実行力など）を学んでいます。

11月13日（月）、6年生の各教室で、理科「生き物どうしのつながり」の外来種の学びから、生態系を脅かすウチダザリガニの駆除や有効活用について考える学習を行いました。

外国から日本にやってきた「外来種の影響」は大きく、在来種を追いやる存在であることを知り、子どもたちと外来種の命についても真剣に考える時間となりました。

この学習をした翌日、機関庫の川について真剣に考えた子どもたちが、実際に「ザリガニ堆肥作り」に取り組みました。雪もちらつく寒い中でしたが、ウチダザリガニを原料として、米ぬかやくん炭、水を混ぜて環境にも土にも優しく栄養満点の肥料作りをしました。

自分たちの手で、命のあるウチダザリガニを肥料にすることに、抵抗感があった子どもたちも多かったと思います。その思いを胸に、最高学年として、次の命につなげる大切な活動であるという責任と意識をもって、取り組むことができた姿がたくさん見られ、本当に素晴らしかったです。ただ、ザリガニ堆肥作りは一日では終わりません。当番を決め、昼休みを活用して何度も切り返しの作業を行います。

今回の活動は、ウチダザリガニの命について考えながらも、自分たちの自然や伝統も守っていく大切な活動です。約1か月間をかけて学年みんなで作ったザリガニ堆肥は3月に1～5年生にプレゼントする予定です。



○外来種は、在来種を絶滅させたり生態系を壊したりしてしまう存在。命があるし、かわいそうだけど、ぼくたちの手でしっかり肥料を作っていきたいです。

○それぞれの場所で食物連鎖が成り立っているのに、外来種を勝手に持ち込んでその輪を崩すのはいけないと思いました。

○命の重さは、どの生き物も一緒だけどこのまま放っておくと在来種もいなくなってしまうので、駆除はしなければいけない。難しい課題だと思いました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダサリガニ	454 ひき	ヤツメウナギ	3 ひき
フクトツノウ	116 ひき	トゲウオ	2 ひき
ヤマメ	17 ひき	イトウヨ	1 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？

わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

わたしはきかんこの川にこんなに生物がいたこと
がかわかてすごいなと思いました。前川に入った
時は、あまり水がきたなくなかたのにこんかいは
きたなからたのでそのことが心にのこりました。
わたしは水をすく、たとえ前よりもきたなからたので、
おおせいの川に入ることでにぎるのかなと考えてい
ます。わたしはきかんこの川が、生物などを大切にし
たいと思いました。きかんこの川では生物が
たくさんいます。生物はしんじか、たりするので大切に
か、たりやさしくすく、たりしたらいいなと思っています。
つぎはおおせいの川に入、たぶんどにぎっていく
のかしらべたいです。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダザリガニ	454 ひき	ウグイス	5 ひき
フナショウ	116 ひき	ヤソメウナギ	3 ひき
ヤマメ	17 ひき	トゲウオ	2 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

ウチダザリガニが「きかんこの川」にたくさんいた魚を
とれとれ食べていき、たまごをうんでとれとれ多く
なっていたことが分かりました。

きかんこの川のために、ウチダザリガニ
のたまごはどのくらい大きいのか、ウチダザ
リガニやウチダザリガニのたまごで
できるおいしい料理を作りたいです。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダザリガニ (1位)	454 ひき	ウグイス ニジマス	5 ひき
フナドジョウ (2位)	116 ひき	ヤツメウナギ	3 ひき
ヤマメ (3位)	17 ひき	トゲウオ	2 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？

わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

ウチダザリガニは、ヤツメウナギやカシ"かなど"をたべているのかしらべたい。ヤマメや体が大きい生き物は、つかまえたとき、バケツの水の酸素がたぐさんつかうけど、小さなかなはすこしか酸素をいらないから、ヤマメがしんでしまったことが分かりました。きかんこの川のために、きかんこの川をもっときれいにするために、ごみをひろって、生き物をふいやしてみたい。ウチダザリガニのうらをみてみると、へのかたちをしているのがオスで、へがないのがメスなのがみ分けられるようになりました。ウチダザリガニはたくさんいるのに、日本ザリガニは、1匹すもいないのは、ウチダザリガニが日本ザリガニを食べてしまったのがしれないのが分かりました。すこしくくにいてみると、日本ザリガニがいるかもしれないと書いて 日本ザリガニを食べてしまったら、ふたつ



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダサリガ	454 ひき	ニジマス	5 ひき
フクロ	116 ひき	カサギ	5 ひき
ヤマメ	17 ひき	カサメウナギ	5 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

きかんこの川にこんないい生きものがある
なんてびっくりしました。さリカにのめ
すとめすのうカリガわがりました。
ウチダサリガニとアメリカサリガにしあ
もともとたいてるためにはこはれーとし
ってそうだったかなと思いました。
またきかんこの川にいたおこはま
たみつけてないいい生きものをみつけて
みたいですね。きかんのあすめめ
をあかるためにはさくさくたいてい
をさるかにいってさる



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダガリガニ	454 ひき	ウグイ・ニジマス	5 ひき
フドジョウ	116 ひき	ヤツメウナギ	3 ひき
ヤマメ	17 ひき	トゲウオ	2 ひき

カシカサ
イトナギ
ゲンゴロウ

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

なんでウチダガリガニはアメリカにいたのになんで今は日本にいるのかを考えた。ウチダガリガニ
またべれるのかをじいじに聞いてます。ヤマメはなんでしん
でたのかガバにのこりました。ウチダガリガニは
今きかんこの川におおいのガバよく分がりました。フ
ドジョウはなんでふしガバはえてるのか分が
りました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ヤマメ	⑤ 17 ひき	ニジマス	④ 5 ひき
サリガニ	⑧ 45 4 ひき	フクドシウ	11 6 ② ひき
ウグイ	① 5 ひき		ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

アメリカサリガニはすごくニホンサリガニ
より大きいんだと思いました。アメリカサリ
ガニは、すごくいふえしているんだとわかりま
した。ウグイやニジマスが少なかったのも、と
調べてみたいと思いました。つぎは、い
ろいろな魚をもとつかまえてみたいです。
ニホンサリガニをふやきたいと思いい
ました。ヤマメは、いかに大きいた
とわかりました。きかんこの川のため
に、アメリカサリガニを川にさがさ
ないようにかんはりたいと思いい
ました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

ちょうさけっか
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

サリガニ	④ 454 ひき	ウグイ	① 5 ひき
フクロノシタ	② 116 ひき	ニジマス	④ 5 ひき
ヤマメ	③ 17 ひき		ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

3年生みんな、おあせてサリガニが454ひきい
る！がすごいなと思いました。さかなやサ
リガニがいろいろなところ、かんづつとまわつ
てきて、ハケツにしているのがよくわかる
のしかたです。さかなやサリガニのとりか
たは、おちかくの「まづし」がすいて、な
んと思いました。が、おちかくはアメリカサリガニを
へらしたいと思いました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ザリガニ (63)	454 ひき	ウグイ (2)	5 ひき
ヤマメ (6)	116 ひき	ニジマス (0)	ひき
フクドゾウ (34)	17 ひき	ヤツメウナギ	1 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？

わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

きかんこの川には、いってきかぬがいて
かりました。きかんこの川に、いってとったザリガニ
はぜんぶちがうところからきたザリガニなの
がびっくりしました。きかんこの川で、もっといろい
ろな生きものや、きかんこの川に、いってきかぬ
きもののなまを、いってきかぬで、いってきかぬです。
ザリガニはぜんぶで454ひきつかまえたけど、
ほんとうは、もっとザリガニがいっぱいいるの、
びっくりしました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ザリガニ (63)	454	ひき	ウグイ (5)	5	ひき
フクロジョウ (34)	116	ひき	ニジマス (9)	5	ひき
ヤマメ (6)	17	ひき	イトヨ	1	ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

ドジョウのオスとメスの見分け方は表面をよくみて
分けるーと思いました。ザリガニは、かりがりから
すてられておるいて、日本にきたことが分かりまし
た。ザリガニのはさみはザリガニどうして
をたかして切りあってまたあそびのうがはえて
くるから大きさがちがうからかーしーに思っ
ました。川をきれいにするためにゴミや葉をす
てないようにしたいです。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

サリガニ(84)454ひき	ウグイ(1)5ひき
フクロゾウ(27)110ひき	ニジマス(4)5ひき
ヤマメ(5)17ひき	ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

心にのこったことはサリガニを13ひき
自分でみつけてとったことです。さか
なを水からたしたら口をバクバクし
てバタバタしてました。あとさいごに、
さかなを2ひきにがしました。サリガ
ニとさかなをいっぱいいいたからサリガ
ニとさかながいっぱいいいることがかり
ました。サリガニのハサミが青いサリ
ガニがいました。1りにニジマスがすく
なかったからそんなにいないさかなた
と分かりました。アメリカサリガニをなく
したいとおもいました。



名前

○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウキダチリガニ	454	ひき	ニシキマツ ウキダチ	5	ひき
フクロジョウ	116	ひき	カツノウチ	?	ひき
カマシ	17	ひき	トゲウオ	2	ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
 わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
 どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「**きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと**」もあれば書いておきましょう。

みたいにと」もあれば書いておきましよう。
 ウチダザリガニ かなんてこんなところでは、カマシ、ニジ
 ス、ウツス、ヤメワナキ、トゲウオ、カジカゲンブロー
 ー、ウサハ、ウチダザリガニ、フクロシロウ、にしろ、な
 んてこんなところには、いりません。しぎに思、たし言、聞、てみ
 んた、り、す、ん、に、カ、ジ、カ、ゲ、ン、ブ、ロ、ウ、イ、ト、ウ、ヨ、キ、見、
 か、め、め、も、組、む、お、も、て、い、い、お、も、て、い、い、お、も、て、い、い、
 でき、ま、か、ん、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
 ニ、ガ、リ、は、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、
 フ、ク、ロ、シ、ロ、ウ、ロ、ウ、ロ、ウ、ロ、ウ、ロ、ウ、ロ、ウ、ロ、
 でき、ま、か、ん、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、の、
 ニ、ゼ、ん、い、ん、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダサリガニ	454 ひき	ニジマス・ウグイ	5 ひき
フクドジョウ	116 ひき	ヤツメウナギ	3 ひき
ヤマメ	17 ひき	トゲウオ	2 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

きかんこの川の水辺体験をしてきかんこの川には、ウチダサリガニや、フクドジョウなどの、いろいろな生き物がいることが分かりました。わかったことは、フクドジョウには、はかがあることが分かりました。ほかにも、昔本当はニホンサリガニがいたそうなんです。けど、ウチダサリガニがふえて、ニホンサリガニは、一匹もいなくなることが分かりました。きかんこの川のべん強をして、生き物の数が場所によってちがうことを調べたいなと思いました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダザリガニ	454 ひき	エジマス・ウグイ	5 ひき
フドジョウ	116 ひき	ヤマトナギ	3 ひき
ヤマメ	17 ひき	トゲツオ	2 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？

わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

フドジョウにははががなく、ヤマメははが
あって、どちらもはががあるわけじゃないのを
知りました。エジマスとヤマメのもようは、に
てい。ウチダザリガニが、454匹もひいてきた
ので、いっぱいつかまえて、魚たちに安定して、
くらそうようにウチダザリガニをくじりたいで
す。それなからた魚たちをつかまえて、かんさ
つをししてみたいです。少ないから、もっと5匹
や20匹の魚をつかまえてみたいです。きか
んこの川のために、ウチダザリガニをたくさんつ
かまえて、魚たちを見たいです。もっときかん
この川にはどんな魚たちがいるかをまご言周でみたいです。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダザリガニ	454 ひき	ニジマス、ウグイ	5 ひき
フクトジョウ	116 ひき	ヤツメウナギ	3 ひき
ヤマメ	17 ひき	トゲウオ	2 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

わたしはドジョウにははがなないことをしてびっくりしました。わたしは、カザ
カゲソゴロウ、トウヨはどうしてあまりつかまえられるのかか
気になったので、調べてみたいと思いました。わたしは魚は
石などたふつか、てもけかをしなないために体がぬるぬる
していることがわかってびっくりしました。ザリガニや魚はへ
こんでいるところのはじにかくれていることをしてびっくりし
ました。魚やザリガニは、場所によってとれる数やちがう
ことがわかりました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウツタザリガニ	454 ひき	ニジマス・ウグイ	5 ひき
フナドジョウ	116 ひき	ヤツメウナギ	3 ひき
ヤマメ	17 ひき	トゲウオ	2 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

とれて、いない魚やザリガニをもっとみてみたいです。
ザリガニがいはいいるから魚もみつけれように、
石のしたとかにさかしてみたい。さかなは石のしたや、
さのかげとかのところにいるのかわかりました。
さかなはちょっとぬるぬるしててにげやさいのか
わかった。ヤマメかはかあって、ドジョウかはかあるのか
わかりました。ザリガニいかかに水の中（に）いるいろ
んなせいろつちもみてみたいです。きれいな川でいきるせいろつち
をほかにもとみてみたいです。とげかはいている
魚もみてみたい。ザリガニはどんなしるかいるのか
みてみたい。かににさかされる魚やザリガニ
をしらべてみたいです。ほかのどんな魚かいるのか
しらべてみたいです。きれいな川にいる魚をとりたい



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダサリカニ	454 ひき	フクトゾウ	116 ひき
ヤマメ	17 ひき	ウグイ	5 ひき
ニジマス	5 ひき	ヤツメウナギ	3 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、**どんなことを考えましたか？**
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「**きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて**
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

いかいとごみがきかんこの川のためになるべく
くごみをみつけたらひろおうと思いました
1.一回ころんでしまつてとさにてをついたので
ききーはつてすぐびくりにしてこの悲い出
はいっしょわすれな...と思いました。
きかんこの川のために一では学校にいる人全
いんできかんこの川のくごみひろいをや
てみたいなーとあらにめて思いました
た。ウチダサリカニが思っているい上の
2は「いぐらいいてびくりにしてつかえたの
はー333人だけなので全体やらたらすごい
数になるんじゃないかとそもしました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダザリカニ	454 ひき	フクトシウ	116 ひき
ヤマメ	17 ひき	ウグイ	5 ひき
ニジマス	5 ひき	ヤツメウナギ	3 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

ウチダザリカニは川の中でどうゆうふう
にすんでいるか考えた。フクトシウをザリカ
ニが川にぱい入っているところにはいたら、
フクトシウがウチダザリカニに、
はさまれてしんじょたけど、どうしては
さんたのかもっと調べてみたいです。
ウチダザリカニにちゃんとササミす色
のはしがかあったのづねつきました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダザリガニ	454 ひき	フクドジョウ	116 ひき
ヤマメ	17 ひき	ウグイ	5 ひき
ニジマス	5 ひき	ヤツメウナギ	3 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、**どんなことを考えましたか？**
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「**きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて**
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

ウチダザリガニが454ひきもいるのが
びっくりしました。また、フクドジョウも116
ひきいるのがびっくりしました。
きかんこの川のためにたくさんごみて
ろしや、きれいにたもつことをやってみたい
です。とても大きいウチダザリガニが
とれてうれしかったです。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

^{ちょうさけっか}
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

うちたザリガニ	454 ひき	フグドジョウ	116 ひき
ウグイ	5 ひき	ヤマメ	17 ひき
ヤツネウナギ	3 ひき	ニジマス	5 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？
わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

うちたザリガニも、フグドジョウも、おおい
なと思いました。 大きいザリガニを、
とれてうれしかったです。 なんでもこんな
に、ザリガニが、いいとれるんだらう
なと、思いました。 サリガニを、い
はいとれて、さいしょびくりました。 バケ
ツの、中に、魚とザリガニが、いい
すきで、ゴミが、いい入っているよう
に見えました。 さいしょに、ころんだけと、
さいごに、いはいとれて、うれしかった
です。 魚が、しんじ、てかわいそうだな
と思いました。



○「機関庫の川 水辺体験学習」のふいかえいをしましょう。

ちょうさけっか
3年生の調査結果をまとめておきましょう。

ウチダザリガニ	454 ひき	ウグイ	5 ひき
アブドジョウ	116 ひき	ニジマス	5 ひき
ヤマメ	17 ひき	ヤシロウナギ	3 ひき

機関庫の川の水辺体験学習をして、どんなことを考えましたか？

わかったことや、心にのこったこと、それについて、あなたが、
どんなことを考えたのかも書きましょう。

また、「きかんこの川のために、やってみたいこと、もっと調べて
みたいこと」もあれば書いておきましょう。

きかんこの川のゴミをひろってきれいにした
いと思いました。ウチダザリガニが454
ひきもいるのがおわかりました。ウチダザリガ
ニをぜんいつかまえて日本ザリガニだけに
したいです。生きものがこんなにいてびっくり
しました。ヤシロウナギは3ひきしかいないのに
ウチダザリガニは454ひきもいるのがわか
りました。ザリガニや魚もしゅる川によて数々
がちがうのがわかりました。きかんこの川は、
10月があたり、日でも川の水がつかめたいのが
しらべてみたいです。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
アライグマ	ペットとして 輸入	スイカやトウモロコシ などの食害
ヌートリア	毛皮のため飼育されて 放された	稲など農作物の 食害
ブルーギル	養食魚として導入 ↓ 養魚場から放流	水生生物を食べて しまう

(2) 何が悪いのか

食物連鎖の関係がこわれる

農林水産業へのえいきょう

人体への危険

(3) 振り返り

肥料をつくる時に感謝してかたじけなく思っています。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
ウチタザリカニ	食用として持ち込まれていた。	痛みやけいれんが起きることがある
セイカゴケクモ	貨物などに紛れて持ち込まれた。	昆虫や同じような餌を食べる動物にえいしょうを及ぼす
ヌートリア	飼育されていたものが放された。逃げ出していた。	さまざまな動物を捕食したりする。

はんとし

(2) 何が悪いのか

食動物 ねんどの関係がこわれる

農林水産業へのえいしょう

人体への危険

(3) 振り返り

今日外来種の話しを聞いて外来種の生物のことをよく知れました、説明がすごくわかりやすかったです。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
フリマングース	ネズミやハノのくじら 目的	色んな危険種を 食べる
クワハツリス	動物園から逃げ てきた。	果樹や電線も かじる
カメツキ カメ	捨てられて定着 した。	さまざまな生き物を 食べる

(2) 何が悪いのか

食物連鎖の関係がこわれる

農林水産業へのえいきょう

人体へのきけん

(3) 振り返り

外来種は、食物連鎖をこわすけど、人間
がもってきた動物だから、外来種は、悪い動物
ばかりじゃないかと思いました。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
アライグマ	ペットとして輸入	さまざまな動物を捕食。 天井などに穴を。
クワハリス	動物園などで飼育	果樹や電線をかじる。 ニホハリスと競合。
アルゼンチンアリ	物資などに付着していた	在来のアリ減少。 食品にたかる。

(2) 何が悪いのか

食物連鎖の関係がこわれる

農林水産業への影響

人体への危険

(3) 振り返り

外来種は、自分の意志で日本に来たわけじゃないと
きいて、申し訳ないけど、在来種にえいようがでるのて
くじやしないといけないうことがわかった。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
ヌートリア	毛皮のため持ちこま れた。	農作物を食う。
ウサギ サリガニ	食用で持ちこまれた。	小動物を捕食する。
クワハリス	動物園	樹皮を食う。

(2) 何が悪いのか

食物おんとの関係がこわれる。

農林水産業へのえいしょう。

人へのきけん

(3) 振り返り

外来種がどれくらいえいしょうをあたえているのかわかった。
ウサギサリガニも一つの命だし、人間が食べてきただけで、悪い
ないから、がんばって肥料を作りたい。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
アライグマ	ペットとして輸入し、捨てられたりにげたものが定着。	農作物の被害。 展示物につめあと。
アムグザル	実馬券や展示の目的で輸入され、にげ出したため定着。	ニホンザルとの交雑。
クサハリス	飼育されていた個体がにげだしたりした。	果樹や電線などをかじったり、ニホンリスとすみかをめぐって競合をおおせし。

(2) 何が悪いのか

食物連鎖の関係がかわれる。

農林水産業へのえいさう。

人へのきけん。

(3) 振り返り

もちろん外来種はいろいろなものに害を加えてしま
うけど、そうなってしまったのは人のせいということ
がよく分かりました。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
オヒキガエル	害虫くじょうのために導入。	さまざまな動物を捕食。イモやマネコ等にいきょうが咬みつきおそれ。
アライクマ	ペットとして輸入。捨てられにげた。	農作物の被害。物につめあとをつける、穴をあけるなど。
カミツキガメ	ペットとして輸入。捨てられた。	さまざまな生き物を捕食。かみついて人に大けがをさせるおそれ。

(2) 何が悪いのか

食物ねんさの関係がこわれる。

農林水産業へのえいきょう。

人体へのきけん。

(3) 振り返り

外来種はわるい、くじょうなわけではないという生き物とされているけどもくもくは在来種であって、人間のちによってつれてこられた生き物だからただただ、わるいという考えは、よくないのかなと思いました。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
アライグマ	ペットとして輸入、逃げたか、捨てられたか	在来種の捕食、農作物の被害
クローンアール	ペットが捨てられ、逃げたか	昆虫類の捕食
オキナグサ	緑化の材料として輸入された	在来植物の生育に影響を与える

(2) 何が悪いのか

食物連鎖の関係がこわれる

農林水産業への被害

人体へのきけん

(3) 振り返り

外来種は人がもってきていて、外来種は食物連鎖の関係をこわすこともあるけど、いぬや猫はあつちにくらして暮らしているから大丈夫かな? と考えた方がいいと思う。

生物どうしのつながり (6年 2組 名前)

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの?	3.何が悪いの?
ヌートリア	第2次世界大戦時、飼育 放されたり、逃げたり	稲などの農作物の食害。 水生植物を→同じ場所の生物 たちにもいさう
アライグマ	ペットとして飼育 捨てられ、逃げたり	在来種の捕食。 スイカ とうもろこし等 お宝を盗む。
クワハラリス	動物物園で飼育 逃げ出し、放たれたり	果樹やを食害する。 他のリスと違い、木から等を ぬけて渡る。

(2) 何が悪いのか

食物連鎖の関係がかわる。

農林水産業へのいさよつ。

人体への危険。

(3) 振り返り

今日は、特定外来種のことを学ぶことができた。アライグマが
特定外来種ということを知ることができた。

明日の肥料づくりとアムは、ついでにしよう。

課題 外来種について考えよう

(1) 外来種を知ろう

1.名前	2.どうして日本に来たの？	3.何が悪いの？
アライグマ	ペットとして輸入。 捨てられたり逃げたりしたものが 定着した	農作物の食害。 ゴミ物などにきずをつける。
ウチダサガニ	食用として持ちこまれた。	他の動物を食ったり すみかをよこどりにしたりする。
アカゲザル	実験や展示の目的で飼育。 にげだしている。	日本ザルとの交雑が発生。

(2) 何が悪いのか

食物連鎖の関係がこわれる。

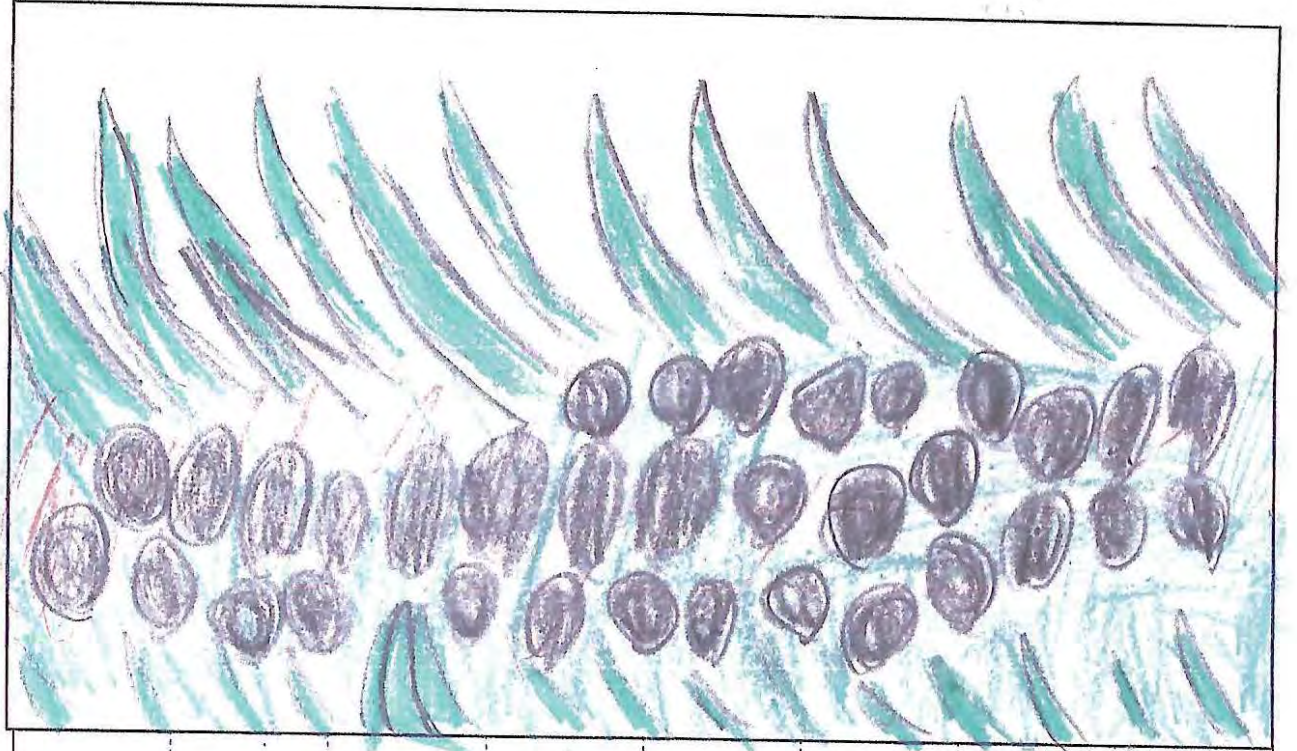
農林水産業へのえいさよフ。

人体への危険

(3) 振り返り

外来種は人によって運ばれていることがわかった。
明日の肥料づくりを大切にしよう

2月14日 水よう日 てんき ()



ふゆの川を見にいきました。

まそうどうり、おってませんでした。

なつとくらべてふゆの川は、水がおおくなっています。

した。さかなはふゆの中どうやってくらしてる

んだろ うなとおもいました。



なまえ

()

()



ふゆの川を見にいきました。
よそへうはこおてふかとおもたけどこおては
いなめたです。川がこおてないのが
ふしぎでした。こおてるところもあるけ
いながれてゐるのかふしぎでした。
なつはザリガニがいたのにふゆはいながたです。
ふしぎでした。なつよりみずがすく
なかつたです。



2月14日 水曜日 てんき(はれ)



ふゆの川を見にいきました。

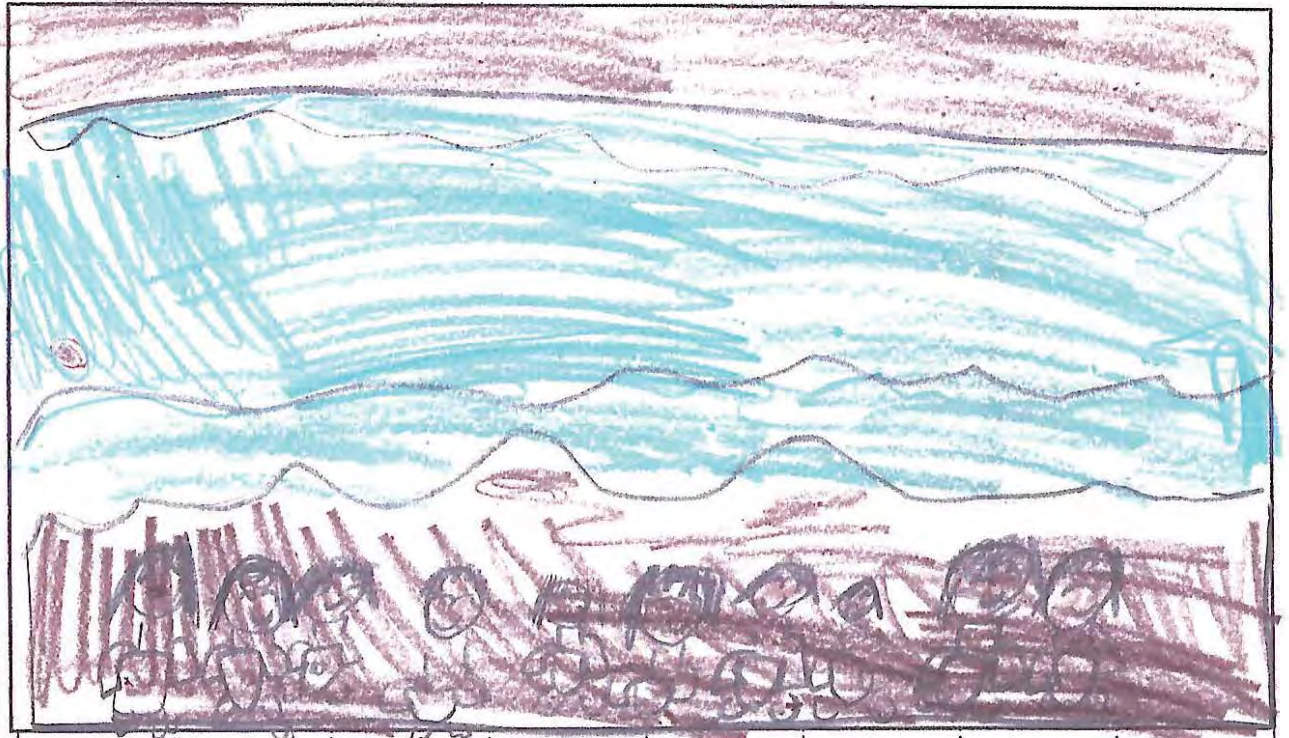
よそへは川は、こおっているとおも
たけれど、じつは、こおっているはい
ません。まだ、まおりがこおっている中
は、こおっていない。ふしぎだなとお
もいました。なみの川とくらべて、
水がふかくなるとおもいました。
た、なみで水がふかくなるとおも
た。

なまえ

かんぱつね



2月14日 水 よう日 てんき(ほれ)

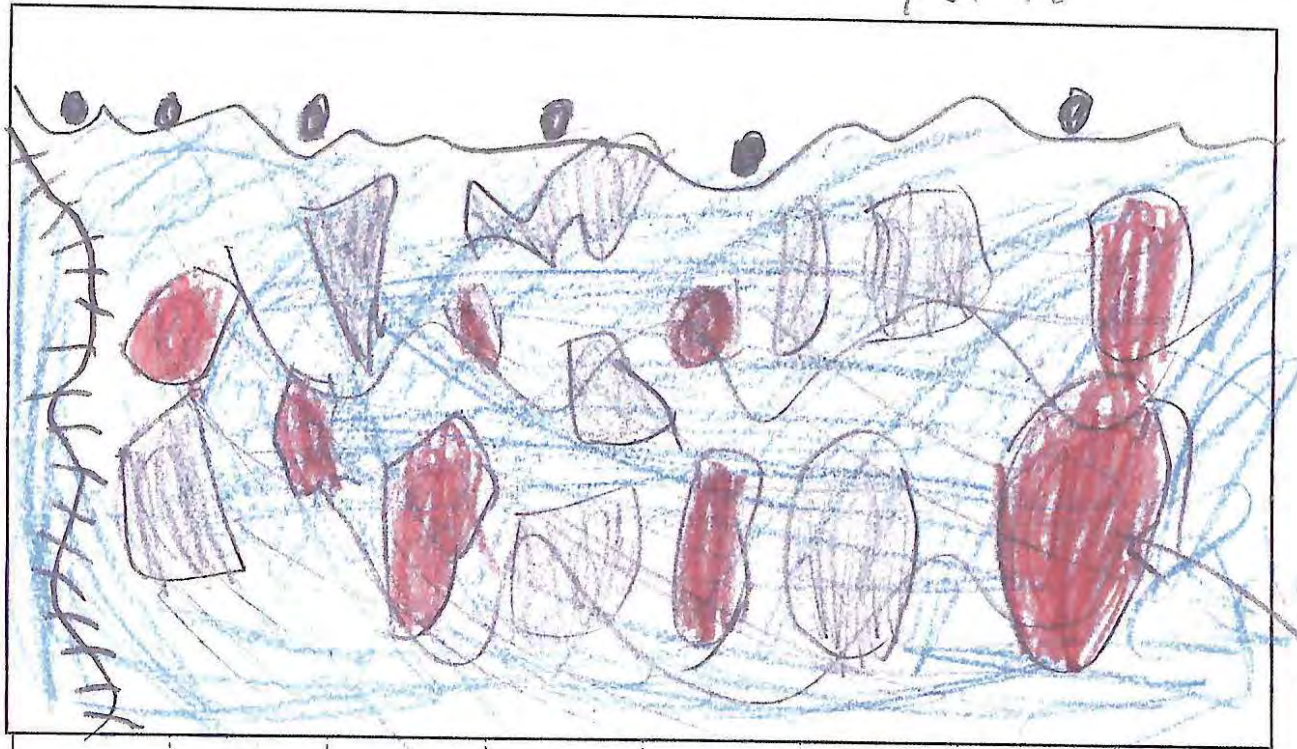


ふりの川を見にいきました。
なつより水が^いおよかったとおもいました。
そしてなつには、さがながいたのに
ふりになるとさが^いがなくて
ふしぎでした。そしてみぎだけこぼ
ていたのにひだりは、こぼつていな
かったのてふしぎとおもいました。

なまえ



12月14日 水よう日 てんき（はれ）



川の川を見にきました。
 よううは、ハズレてあつてりませうた。
 あつてるとたいてい、まけてもあつ
 なかった。おながおあよりやがた。
 ゆきがらつてゐるのに川はどどん
 ながれてくのがいらしきた。
 とおもいました。



なまえ

2月14日 水曜日 てんき(はれ)



ふの川を見にいきました。

なつの川とくらべてあまりかわって
いませんでした。もうここにいるのと
こあって、ないのがありました。

ふしぎなこともありましたそれは、

ながれがおそい川でもりきを

ながれたらなげるほど川のながれ

がはくなるのでふしぎでした。年生でもまた
いきたいです。

2月14日 水 よう日 てんき (はれ)



ふゆの川を見んにいきました。
なつよりながれがはやかっ
たしちよっただけみす
がおおかつたです。つぎは、
もっとすごいけんを
したいです。かぞてくても
川を見んにいきたいで
す。



ふゆの川を見にいきました。

ゆきの玉大きいのをいれたらすぐとけなかつたです。なつとくくぐっていかぬはすこしおそかったです。ふゆの川は氷がたまって、その下はこおっているところとこおっていないところがありました。水のりょうはかぬすこし大がたです。ふゆの川は、とんがったです。ザリガニはどこにいるかあまり、そ、う、そ、う、で、き、な、か、た、で、す。

こんどはゆきであそぶあべんもようをしたいなどおもいました。

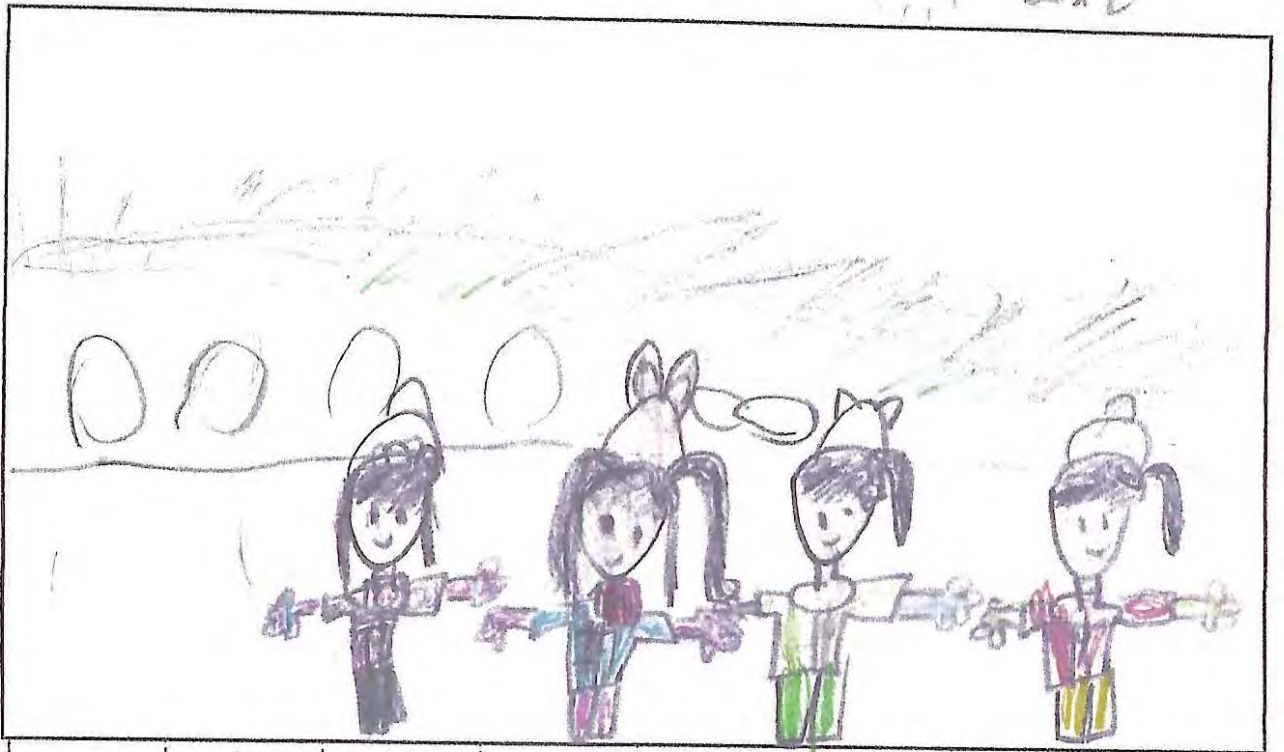
なつのザリガニのいろは赤とくろ、また、たかんですわたしに川の字し、つのと、こ、す、こ、し、か、ぜ、ぎ、み、た、た、の、で、川、に、は、い、ら、な、か、た、で、す。

2月14日 水曜日 てんき(はれ)



ふゆの川を見にいきました。
ふゆの川のおんではたいてえ
マイナス2ドぐらいでした。
ながれは、はやくてこめは
こそかったです。ゆきをすぐとけ
なくてかたまりました。
またふゆの川を見にいきたい
です。

2月14日 フト よう日 てんき (ひれ)



いゆの川を見にいきました。

いゆの川に、ゆきが水をなげた

ら、すぐにはとけなかったです。

いゆの川で生きものがいし

たに、たりくさのしたにいる

のかな？とおもいました。

なつの川と、いゆのかはでなつのほ

うかはやいとおもいました。

冬の川学しゅう

3月8日(金)

名前

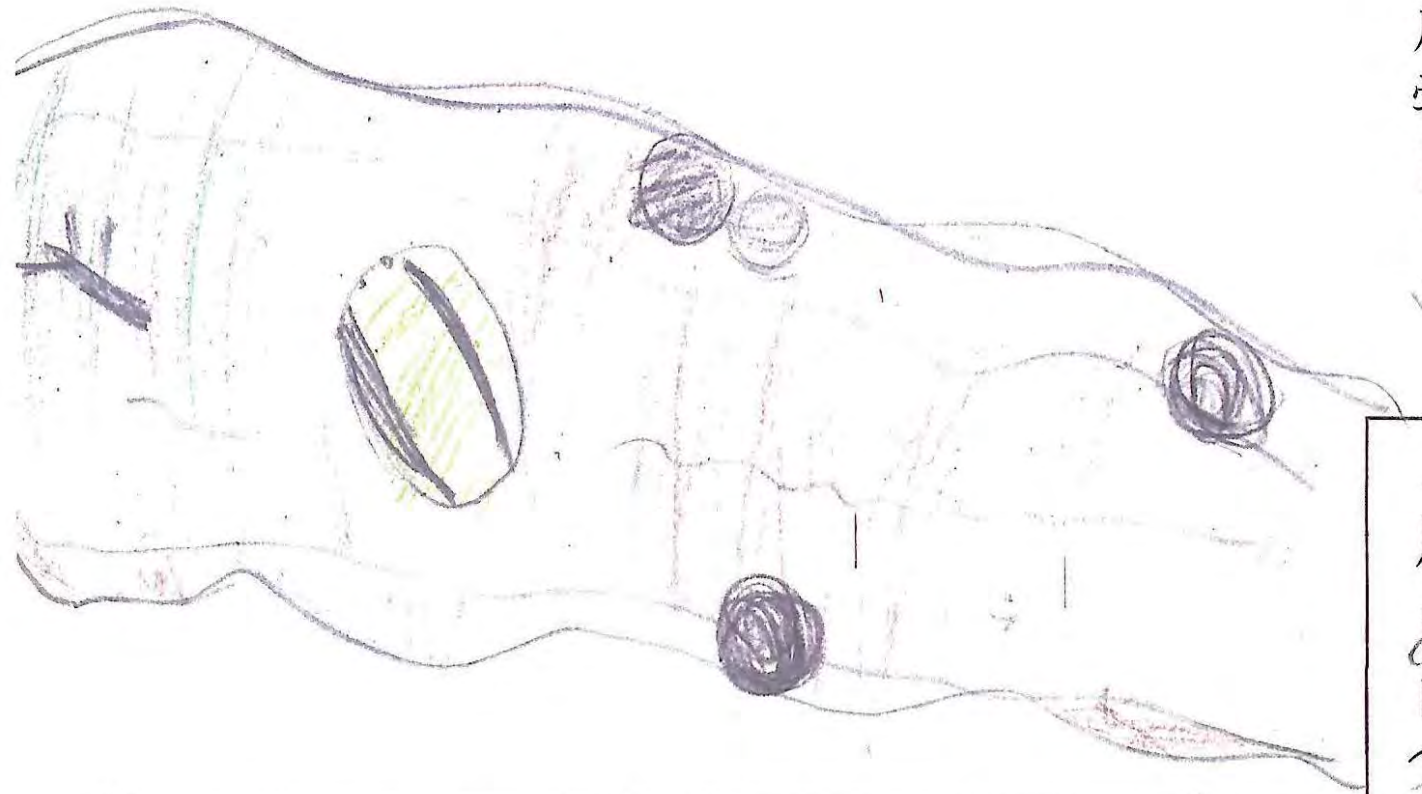


川の音や川のながれが、音は
いろんな音がなったりしていま
した。ながれは、しゃいしよは、な
がれが、おそかったですし、つぎは
少し早やかかったです。さしづ
め、ちやくちやく、早やかたて
す。川を見に行、て、木しかた
です。

冬の川学しゅう

11月8日(金)

名前



冬の川を見に行きました。

川をよくみると石のたんこ

がでまいて、とちゅうから川のな

がれがまくなっていました。

つきに川の音を聞いてみました。

ちほちほと聞こえました。

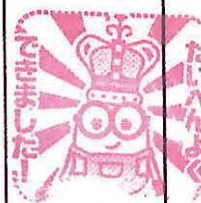
さいごにカエる見たな石がありました。

冬の川学しゅう

3月8日(金)

名前

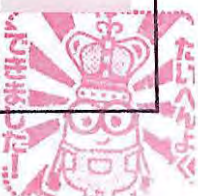
川の音がザツていう音がして、川のまわりがこおりでした。川のまわりにこおりがないところもありました。川のながれがはやいところもあったりおそいところもありました。



冬の川学しゅう

3月8日(金)

名前



川の学しゅうで、大きい川の
ところにおおりがはってあり
ました。おもしろそうであ
りたくなって思いました。川を
見ているときにオレンジ色
の石には、みたいなものがう
いていました。ながれておよ
いでるみたいで

おもしろいと思いました。

冬の川学しゅう

3月 8日 (金)

名前



冬の川を見に行きました。

こおていふところやこおていな

いとふふは、いふふは。

川の音は少し小々てザとい

う音が聞こえました。クダを

はけました。

冬の川をクダが、るのがかきま

した。





帯広市立豊成小学校 3年3組 学級通信 No.8 (R5.4.27) 文責: [redacted]

サケの赤ちゃん、元気でね!

ゆたか(総合的な額数の時間)の学習で、サケの赤ちゃんの放流をしました。3年生のゆたかの学習は機関庫の川について探求的に活動することがメインとなるので、その一環として今回の取組を行いました。

講師として石垣さんと「帯広サケの会」の千葉さん、伊藤さんをお招きし機関庫の川とサケについてのお話も聞きました。授業後に、感想と機関庫の川で知りたいことを書きましたので、いくつか紹介します。

<感想>

- がんばってかえってきてねという気持ちでほうりゅうしました。大きくなってかえってきてねということを考えながらほうりゅうしました。([redacted] さん)
- サケの赤ちゃんを放流するとき、サケのあかちゃんがしないといいな、ちがう魚に食べられないといいな、がんばって生きて、大きくなったらここにもどってきてほしいな、と思いました。([redacted] さん)

<知りたいこと>

- きかんこの川がきたないか、きれいかをしりたい。([redacted] さん)
- きかんこの川はどこまでつづいているのかしりたい。([redacted] さん)
- やまめは、何ひきくらいいるのか。川には、何しゅるいくらい生きものがいるか。サケがどうやって生きていくのか。([redacted] さん)
- きかんこの川には、どれくらいの数の魚がいるのか。川の生き物はどうやっていきっていくのか。きかんこの川がきたなかったら魚はどうなるのか。([redacted] さん)
- 何の生きものが食べられて、何の生きものがなかまなのかしりたい。([redacted] さん)
- きかんこの川で、サケやザリガニ以外の魚や生きものを見たいです。([redacted] さん)



授業参観 ありがとうございます☆



22日（土）の全校参観日にお越しいただいた皆様、お忙しい中ありがとうございました。3年生に進級したお子さんの様子はいかがでしたか？

授業では漢字練習や音読に取り組む、タブレットを学習に用いる、自分なりの考えを書き起こす姿などを見ていただきました。クラスの雰囲気も普段とあまり変わらない様子で、お客さんがいてもそんなに緊張しない子どもたちなんだな…と、新しい姿を知ることができました。

懇談会には6名の皆様に参加くださいました（多くの方とお話ししたかったのですが…残念！次回はお待ちしています☆）。短い時間ではありましたが、お子さんの様子、ご自身のマイブーム等を自己紹介し合い、楽しい雰囲気で行うことができました。

また、今週から個人面談が始まっています。こちらも限られた時間ではありますが、ご家庭と学校でのお子さんの様子などを交流し合うことができ、大変有意義な時間となっています。家庭と学校の連携を密にし、一層教育活動の充実を図りたいと考えていますのでよろしくお願いします。

また、今週から個人面談が始まっています。こちらも限られた時間ではありますが、ご家庭と学校でのお子さんの様子などを交流し合うことができ、大変有意義な時間となっています。家庭と学校の連携を密にし、一層教育活動の充実を図りたいと考えていますのでよろしくお願いします。

ゆたか学習～サケの稚魚放流体験～



魚たちを放していました。

25日（火）のゆたかの学習では、機関庫の川に関する学習のスタートに、学校の水槽で飼育していたサケの稚魚を放流する体験をしました。指導をした河村先生から「これから遠い海まで旅をするサケの赤ちゃんたちに、何かメッセージを伝えてあげながら放流してね」との話を聞いた子どもたちは、「無事に大きくなってね」「ちゃんと成長して、またこの川に帰ってきてね」など思い思いの言葉をかけながら、川に稚

魚自身、こういった体験をするのは初めてですし、豊成小学校の伝統である「キャリア教育」の一環として、自然に触れて様々なことを学べる本学習は大変貴重な体験であると感じました。

花満開

やさしく
たくましく
えがおで
考える

令和5年5月8日

ゆたか『機関庫の川とともだち』

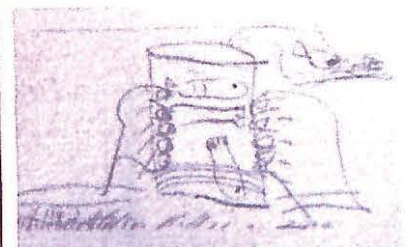
ゆたか（総合的な学習の時間）の学習では、3年生は『機関庫の川と友だち』と題して地域について調べたり、まとめたりしていきます。その一環として、サケの赤ちゃんの放流を行いました。

講師として石垣さんと「とかち帯広サケの会」の千葉さん、伊藤さんをお招きし、機関庫の川とサケについてのお話をさせていただきました。「サケの種類や特徴」、「サケの赤ちゃんがどんな風に泳いでくるのか」など、興味深く聞いていました。

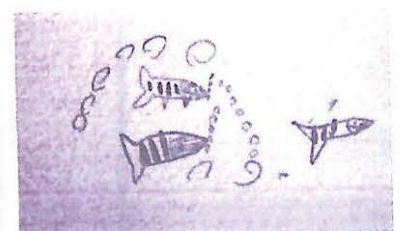


<知りたいこと>

- ・サケの赤ちゃんは何を食べていますか？（ ）さん
- ・機関庫の川には、いつも魚がいるんですか？
ざりがにとか、まだいますか？（ ）さん
- ・生まれた川に生まれた日にもどってくる仕組みが
もっと知りたいです。（ ）さん
- ・水の温度、長さ、どんな魚がいる？
魚がどのくらいいる？（ ）さん
- ・川の中になんひきの魚がいるのか知りたい。（ ）さん



（ ）さん



（ ）さん

<放流した感想>

- ・サケは、さいしょは小さいけど5年くらいたって、ぼくのつくえくらいになるのがすごいなあと思いました。(さん)
- ・元気で4～5年だったら、また会おうね！って考えました。(さん)
- ・アメリカから日本へ、ぶじ帰ってきてほしいと思いました。
また会いたいと思いました。(さん)
- ・5年後どのくらい大きくなるのかを見てみたいです。(さん)
- ・サケが機関庫の川に帰ってこられるのが2～3びきだけだったので、すごくかなしかったです。もう一回サケの赤ちゃんを機関庫の川にかえしたいです。(さん)



授業後に、感想ともっと知りたいことを書きました。厳しい海への旅立ちを一生懸命に応援する姿が、見られました。それぞれに「もどってきてね」「また会おうね」とサケの赤ちゃんを応援していました。

5月12日の遠足の行き先は、「さけのふるさと公園」です。またさらに、地域の川や生き物について、興味関心を深めてほしいです。

STAR

～スター ームーンがかがやくクラス～

さけの赤ちゃん、バイバイ!



ゆたか(総合的な学習の時間)の学習では、サケの稚魚の放流がありました。3年生のゆたかの学習では、学校に流れている機関庫の川についての学習をしていきますが、その一環として今回の取組が行われました。放流の日には、講師として石垣さんと「とかち帯広サケの会」の千葉さん、伊藤さんをお招きし、サケがこれからどんな旅に出るのか、どれほど大きくなるのか等について教えていただきました。子どもたちはサケの赤ちゃんが大きくなって、機関庫の川に戻ってくるといった話を聞いた時には、とても驚いている様子でした。放流の時間には、子どもたちは「またね!」「元気でね!」「バイバイ!大きくなって戻ってきてね。」等の声を掛けながら放流していました。また、別日には河村先生と一緒に十勝の地名や流れている川についての勉強をしました。十勝にはいろんな川があることや、その川がつながっていることを教えてもらいました。「川について学びたい!」「機関庫の川のことを知りたい!」という意欲が高まっている様子が見られました。



〈放流の感想〉

- 水槽からいなくなってさびしいけど、4年後に大人になって帰ってきてほしいです。(さん)
- サケの赤ちゃんが大きくなって帰ってくるのが楽しみです。(さん)
- また機関庫の川にサケが戻ってきたら見たいです。(さん)
- サケの赤ちゃんが機関庫の川に元気に戻ってきてほしいです。(さん)
- サケの赤ちゃんが大きくなって機関庫の川に帰ってくると知って、びっくりしました。(さん)
- サケは3～4年他の国の海に行って戻ってきて、新しい命が生まれるんだと思いました。(さん)

STAR

～スター 一人一人がかがやくクラス～

機関庫の川の「博士」になろう!



今週の水曜日、「ゆたか」の学習で今年度初の機関庫の川に入りました。着替えや靴等の準備、ありがとうございました。サケの稚魚を放流してから、機関庫の川への興味がどんどん深まっている子どもたち。今回の川の学習の前には、河村先生と機関庫の川についての事前学習をしました。今までの自分の経験から機関庫の川がどんな川なのかを考えたり、機関庫の川の不思議なことや調べたいことを考えて書き出したりしました。最後に河村先生から、「3年生が終わる頃には、『機関庫の川ってこんな川ですよ!』といっぱい教えられる博士になろう。」「博士だから、どんなことを調べるのか、どうやって研究するのかをみんなが考えるんだよ。」と「きかんこの川と友だち」の学習をしていく上で大切なことや目標を教えてもらいました。そして迎えた水曜日。朝から川の学習のことでワクワクしていた子どもたち。河村先生の話をよく聞いた後にペアの子と一緒に川に入って学習しました。生き物をとっていると、「こんなに大きいザリガニがいたよ。」「魚見つけた! 大きい。何ていう魚かな。」「ザリガニじゃない、えびみたいなのがいた!」「この小さい虫みたいなの、何だろう…。」というつぶやきがちらほら。楽しむ中でも不思議なこと、気になることが出てくる様子が見られました。今回の学習で思ったこと、考えたこと、気になったことをこれからの「博士」に向けての学習に生かせたらいいなと思っています。





帯広市立豊成小学校 3年3組 学級通信 No.20 (R5.6.27) 文責：

川の学習①

少し前になりますが、ゆたかで川の学習を行いました。川の不思議を見つけるために、生き物の採集を中心に行いました。ザリガニやヤマメ、虫の幼虫などたくさんの生き物を捕まえることができました。

生き物に注目が集まりやすいのは当たり前なのですが、川の近くに落ちているゴミに疑問をもつ子や、川辺の土や泥に興味をもつ子もいました。これから学習が続く中で、自分でテーマを見つけて調べていき「機関庫の川博士」となっていきたいと思います。



本日も川の学習2をしています。服も靴も汚れたものを持ち帰っています。洗濯など、よろしくお願いします。

<活動の振り返りから>

- ・きかんこの川の中になんびきザリガニがいるのかしらべたいです。ザリガニはなにをたべるのかしらべたいです。ザリガニのしゅるいをしらべたいです。(さん)
- ・なぜきかんこの川という名前がついたのか調べたいです。(さん)
- ・何びききかんこの川に生きものがいるのかなと思いました。生きものはどこらへんにいるのかなと思いました。(さん)
- ・ザリガニや魚のような生き物は、土の下にいっぱいいたので、どうして土の下に生き物がいっぱいいるのだろうと、ふしぎでした。(さん)



帯広市立豊成小学校 3年3組 学級通信 No.21 (R5.6.29) 文責: [redacted]

川の学習②

今回は水生生物の調査をしました。きれいな水にしか生息しないとされる生き物の数を調べることで、機関庫の川の水質について目を向けてもらうことが目的でした。見た目はちょっと…な虫たちをどんどん捕まえていく子どもたちでした。



< [redacted] さんの自主学習ノートより >

わたしは川学習をしました。1ぴき小さくて元気がいい水せいこんちゅうをつかまえました。どれもぜんぶおなじ水せいこんちゅうでした。でも、[redacted] さんがいしのかたまりの中になにかはいているものをみつけていたのでびっくりしました。

川にはゴミもありました。でも川はきれいでした。やきゅうボールが川の中や草の上などに3こくらいあってびっくりしました。こうはんくらいに、石にたまごがくっついてあるのがすごかったです。黄色のたまごとすこし黄色よりこいたまごがくっついていました。けっこう小さかったです。

川のことを知って、川のためにもっと川をよくしたいと思いました。

～ステキな学び合い～

体育の学習では、授業後に活動日誌を書いています。その日の授業の振り返りを書く中で、お互いのよさに気づき学びを深めている様子が見られました。

- ・ [redacted] さんのけり方で、足をまげてまっすぐけっていたので、やってみようと思った。
([redacted] さん)
- ・ [redacted] さんのけるのがとてもうまくて2るいになっていたの、こんなふうになれるようになりたいなと思いました。([redacted] さん)
- ・ きょうは、[redacted] さんと [redacted] さんが2てんとってもくれたので、チームもりあがって楽しかったです。じょうずになれるようになりたいです。([redacted] さん)



Sunny!

太陽のように
光い輝く、
元気いっぱい
クラス☆

令和5年 6月30日 No. 14 文責

川の学習 水生生物を探せ！

27日（火）のゆたかの時間で、三度目の川の学習を行いました。今回は子どもたちの疑問の中で「機関庫の川って、きれいな川なのかな？」「機関庫の川には、ザリガニや魚以外にも生き物がいるのかな？」等に注目し、川の様子を詳しく調査する活動を行いました。

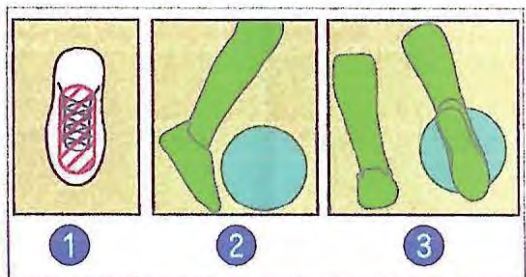
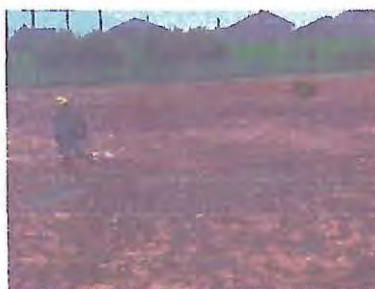


河川の水質を調査する方法の一つに、生息する水生生物の種類から川がどれだけきれいかを判断する方法があります。川底から石を採取し水をかけながらごしごしと洗ってみると、普段見慣れない水生生物がたくさん発見できました！「ヒラタカゲロウ」や「ナガレトビケラ」などの生物はきれいな川にしかない虫なので、結果的に水質を証明することにつながる…という学習内容です。豊成小学校のゆたかの学習時にいつも思うことですが、五感全てを使って自然に親しみながら学習できる機会はとても貴重なものです。学習中は子どもたちの表情もすごく明るくて、いい勉強だなあ…と常々感じています。衣服などの準備が大変かと思いますが、いつもご協力ありがとうございます。



かっ飛ばせ！キックベースボール

キックベースボールは、サッカーボールを使い、三角ベース的なルールで行う競技です。より遠くに飛ばすためのポイントとして、「今まではつま先で蹴ることが多かったと思うけど、靴ひもやマジックテープのある場所で蹴ってみよう」（インステップキック）と伝え練習に励んでいます。3年2組はサッカー少年団に所属する子が何人もいるので、とてもよいお手本となっています。ホームランが打てた子は大喜び！ぜひどの子にもその快感を味わってほしいと思います。



STAR

～スター 一人一人がかがやくクラス～

ご来校ありがとうございました！

お忙しい中、授業参観・学級懇談会に参加していただきありがとうございました。子どもたちが頑張っている姿を保護者の皆様に見ていただき、子どもたちも嬉しそうでした。また、入学してから初めて多くの保護者の方が学級に入って1時間参観していただく形となり、子どもたちはその環境にも緊張もしていたのではないかなと思います。そんな中でも一生懸命に頑張っていました。今回の授業ではあまりのあるわり算の学習をしました。これから本格的にあまりのあるわり算の学習が始まっていきます。つまづきやすい単位でもあると思いますので、是非お子さんの宿題や家庭学習に取り組んでいる様子を見ていただければと思います。また、家庭数の保護者の皆様には、交通安全指導の割り当ての方のご協力もありがとうございました。変更等ありましたら、7月10日(月)までに連絡ください。

いじめ防止標語発表



先月、お昼の校内放送でいじめ防止標語の発表がありました。標語は、いじめのない、いいクラス、いい学校であるためにはどんなことが大切かを子どもたちが自分たちで話し合い、その中で出たキーワードから作りました。3年1組からは **さん**と **さん**が代表として発表してくれました。カメラの前でも堂々と発表する2人の姿、とても立派でした！

水生生物を見つけよう！



ゆたかでは、子どもたちから多く上がった疑問である「機関庫の川はきれいな川なのか？」を解決するために、水生生物を探す学習をしました。河村先生から「綺麗な川にしかすめない水生生物がいるんだよ。」と教えてもらった子どもたちは、その生物がいるのか、夢中になって調べていました。川から石を持ってきて、石をこすって見つけるのですが「なんかくっついてる!」「これ、ヤマトビケラの幼虫だと思う!」「ヒゲナガカワトビケラがいた。」等、よく観察してメモをとっていました。次週は別の方法で水質調査を行う予定です。



帯広市立豊成小学校 3年3組 学級通信 No.23 (R5.7.19) 文責: [redacted]

きかんこの川は本当にきれいなのか？

バックテストという水質検査をしました。前回に探した水生生物はきれいな水に住むものなので、子どもたちも機関庫の川がきれいな川という認識でいたと思いますが、今回の活動で多面的・多角的に調べてみたことで、理解が深まったり新たな疑問が出てきたりしていました。



<子どもたちのふり返りから>

- ・きれいな川でした。あと、人が入ってにごっているのに、すくってみれば、ものすごくとうめいで日光がすきとおっているかのようでした。今度は、にごっているのになぜ水はきれいなのか調べたいです。([redacted] さん)
- ・きかんこの川は、きれいなのがわかりました。きかんこの川では、ポイすてをどのくらいしているのか調べたいです。石についている虫が、この前いないのがいたので、また調べたいです。([redacted] さん)
- ・きれいな川。なぜトンネルの下の川はすながあるのに、下じゃないところはすなが少ないのかしらべたいです。今日川に手をつこんだら、大きなあながあって、あれはなんのあなのかがふしぎです。([redacted] さん)
- ・きかんこの川はキレイなんだなと思いました。気温はあついののに、水はつめたいのがふしぎだなとおもいました。ながれの速さを調べてみたいです。川はにごっているところもあるし、きれいなところがあるのを調べてみたいです。([redacted] さん)
- ・きかんこの川はきれいでした。もっと調べたいことは、日本にある川の中では、どのくらいきれいなのか調べたいです。思ったことは、使っているやく品は同じなのに、なんでけっかがちがう班があるのかふしぎでした。([redacted] さん)



帯広市立豊成小学校 3年3組 学級通信 No.25 (R5.8.24) 文責: 〇〇〇〇

きかんこの川 水辺体験学習

今回の川の学習は、多自然ネットの方々をお招きして、機関庫の川の生物の調査をしました。学年を6つの班に分け、300m程の範囲でザリガニや魚を採取し、集計をしました。どんな生き物がどれだけとれたかは下の表に載せておきます。

多自然ネットの方からは、生き物の生態や特徴についてたくさんのことを教わりました。学習の最後にウチダザリガニについて話していただき、「外来種」で駆除の対象になっていることも学びました。

今回の学習で、機関庫の川について新しい視点を得た子どもたちでした。

- ・外国にいた生き物が日本にいたとは思いませんでした。(〇〇〇〇 さん)
- ・なぜ、ウチダザリガニがたくさんいるのか知りたいです。(〇〇〇〇 さん)
- ・ウチダザリガニが何年間で川いっぱいになったのかを調べたいです。(〇〇〇〇 さん)
- ・きかんこの川にウチダザリガニがいっぱいいるから、魚が少ないのかなと思いました。
(〇〇〇〇 さん)
- ・日本の魚を食べちゃうザリガニをたくさんとっておいてよかったなと思いました。
(〇〇〇〇 さん)

ウチダザリガニ	454 匹	フクドジョウ	116 匹
ヤマメ	17 匹	ウグイ・ニジマス	5 匹
トゲウオ	2 匹	カジカ・イトウヨ・ゲンゴロウ	1 匹



STAR

～スター 一人一人がかがやくクラス～

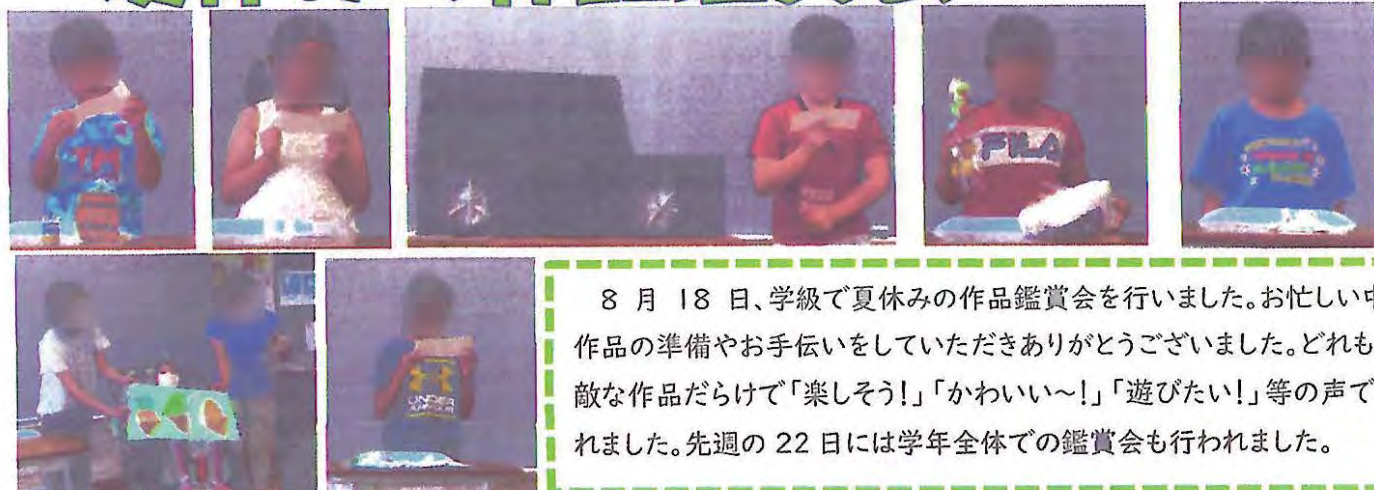
機関庫の川 水辺体験学習

先週の月曜日、NPO 十勝多自然ネットの方々含めた外部講師に来ていただき、機関庫の川の水辺体験学習が行われました。4 クラス合同で実施し、豊成小学校の上流部から帯広北高校あたりまでの広い範囲で6つの班に分かれて学習しました。各班には一人のガイドの方がついてくださり、魚やザリガニ等の生き物の取るコツを教えてくださいました。生き物を取った後、それぞれの生き物の数を数えたり、機関庫の川に住んでいる生き物の特徴(魚の模様等)を教えてくださいました。たくさんの生き物に触れ、たくさんの知識を得た子どもたち。3時間ありましたが、その時間はあっという間に過ぎていったようです。「(時間が過ぎるのが)早かった!もっとやりたかったよ。」「楽しかった!」という声で溢れました。

次の日、振り返りシートを書きました。6班合わせてフクドジョウが116匹、ヤマメが16匹にもかかわらず、ウチダザリガニが454匹!圧倒的なウチダザリガニの数に「ええ〜!」「多すぎじゃない!?」と驚きの声があがりました。今回の学習も生かしながら、これからのゆたかの学習に取り組めるといいなと思っています。



～夏休みの作品鑑賞会～



8月18日、学級で夏休みの作品鑑賞会を行いました。お忙しい中、作品の準備やお手伝いをしていただきありがとうございました。どれも素敵な作品だらけで「楽しそう!」「かわいい〜!」「遊びたい!」等の声で溢れました。先週の22日には学年全体での鑑賞会も行われました。

花満開

やさしく
たくましく
えがおで
考える

令和5年9月4日

機関庫の川 水辺体験学習

2学期始めの「ゆたか」の時間は、多自然ネットの方々をお招きして活動しました。今回は、いつも川の学習をしているところよりも少し川上へ進み、帯広北高校辺りまで行ってみました。学年を6つの班に分けて、300mほどの範囲で、ザリガニや魚の調査をしました。各班にガイドさんがついてくださり、魚やザリガニを採るコツを教えてくださいました。生き物を採った後は、魚の名前や特徴を教えてくださいました。ヤマメとニジマスの見分け方やザリガニの雄雌の見分け方などなど。ザリガニが増えているのはどうしてか？考える場面もありました。

最後に生き物の数を確認して、川へ返してきました。生き物の数は下の通りです。

ウチダザリガニ	4 5 4 匹	フクドジョウ	1 1 6 匹
ヤマメ	1 7 匹	ウグイ・ニジマス	5 匹
トゲウオ	2 匹	カジカ・イトウヨ・ゲンゴロウ	1 匹

- ・魚やザリガニの取り方は、岸の近くの方が取りやすいことが分かった。(:さん)
- ・ザリガニがたいりょうにいた。ウナギがいることを知った。(さん)
- ・トゲウオが川にいるなんて知らなかった。魚を食べるザリガニが悪いと思った。(さん)
- ・トゲウオがいる川はきれいなことがわかった。(さん)
- ・ザリガニや魚は、川の場合によって数がちがうことがわかった。(さん)
- ・ザリガニは、全部で454匹捕まえたけど、本当はもっといると知ってびっくりしました。(さん)
- ・レアな魚がいっぱい来るように、川をきれいにしたいです。(:さん)
- ・魚がなにを食べるのか知りたいです。魚が棲めるように川をきれいにしたい。(さん)



げんきいっぱい！

～やるきいっぱい やさしさいっぱい～

豊成小学校 1年3組 学級通信 令和5年9月25日 No.25

川の学習がありました！

15日の金曜日に、学校のそばを流れる「機関庫の川」で初めての川の学習をしました。久しぶりに北高等学校の生徒さんと一緒に行いました。とっても優しいお兄さん、お姉さん達で、自己紹介をして仲よくなり、ライフジャケットをつけてもらったり、手をつないでもらったりとお世話になりました。「川と友達になろう」という目標で、川に住む生き物探しをしました。最初は、怖い気持ちもあったのか、なかなか川に入ろうとしなかった子ども、慣れてくると川に入ってあみを使って生き物を探していました。北高のお兄さんが川に入って勇気をもらった子もいたようです。ザリガニや魚、どじょうがいたようで、みんなで観察して、ザリガニ以外は川に戻しました。あっという間に時間となってしまいましたが、とっても楽しかったようです。いい経験です。お忙しい中、準備をしていただきありがとうございました。スムーズに活動することができました。



大きなザリガニが
いたよ！



なにかいるかな・・・



うわぁ～ザリガニだ！



もっと

わくわくきらりん



やる気 こん気 おもいやり

豊成小学校 2年1組 学級通信 令和5年9月26日 NO. 25

楽しかったよ！～川の学習～



遅くなってしまいましたが、北高のお兄さん、お姉さんと行った川の学習についてのお便りです。





みんなが楽しみにしていた川の学習。雨が降らないか心配でしたが、何とか実施できました。北高のお兄さん、お姉さんに、ライフジャケットを着るのを手伝ってもらったり、魚やザリガニを捕るのを手伝ってもらったり、バケツに入れるのを手伝ってもらったりして、楽しく活動できました。ウチダザリガニやヤマメやフクドジョウ、カワヤツメなどの魚がたくさん捕れて、触ってみたり、つかんでみたりしながら観察もしました。後日、ワークシートにまとめましたので、次回紹介します。お楽しみに！

トライ!

令和5年10月5日 第42号

風水害から暮らしを守る

社会では「自然災害から暮らしを守る」の学習をしています。まどめの学習として「どのようなところで水害が起きやすいのか考えよう」をセンターホールで行いました。玉入れのボールを川の水に見立てて、機関庫の川、札内川、売買川に水を流して、氾濫しやすい場所を確認しました。川の合流地点を担当した子がボールを持ちきれなくなり、川が氾濫することを身をもって体験することができました。授業では、雪害や地震災害について、新聞やノートにもまとめているので、少し紹介します。(裏面参照。)

スポーツの秋!

体育では、鉄棒と縄跳びの学習が佳境です。鉄棒では、逆上がり・膝掛け技(上がり・前回り・後ろ回り)ができるように練習してきました。授業中に友達同士で教え合い、新たに逆上がりができるようになった子が4人!すごい!膝掛け技にも果敢に挑戦する姿が頼もしいです!



縄跳びも「豊成ジャンプ」の用紙を見ながら頂上までいけるように何度も跳んでいます。全身運動である縄跳びは、リズム感も鍛えられるのでぜひ継続したいです。これから学習発表会の練習で忙しくなりそうですが、合間を見つけ、リフレッシュも兼ねて、縄跳び練習をしたいと思っています。鉄棒も、10月いっぱいテスト受付中なので、休日にも練習をしてみてください。



これまでは担任が席を決めていましたが、自分たちで考え、よりよい判断が少しずつできるようになってきたので、子どもたちに方法から委ねてみることにしました。いろいろな人と交流・協力する、学習に集中する・自分で決めた責任をもつことを条件にし、方法を聞くとかじ引きに!わくわく感を楽しみたいのか、かわいいものです(^^)。これから1ヶ月(日直が1周するまで)、決まった席で頑張ります!



慣れてきたら、どんどん川に入っ
て生き物を探しています。



北高のみなさん
ありがとうございました！



写生会が始まりました！

写生会で、「ミニホイールローダー」の絵を描いています。最初は、外にでて、大きなタイヤを描きました。よく見て描く子もいました。画板を使用して描くことも初めてでしたが、みんな上手に描くことができました。これから完成まで楽しみです！



SMILE

NO 34

担任



生命のつながり(授業)



11月13日(月)外来種について(授業)

外国から日本にやってきた生物「外来種」。昔から日本にいる「在来種」をおいやり、中には絶滅した種もあるとか…。外来種が日本にやってきた原因を学び、日本への影響も知りました。この学習から、機関庫の川にいる“ウチダザリガニ”にスポットをあてて、深めています。

月曜日の学習より…

- ・さん→外来種も来たくて来たわけじゃないので、ザリガニ堆肥作りも責任をもってやろうと思いました。
- ・さん→外来種は食物連鎖をこわすこともあるけど、命はあるし、駆除しても利用できるか考えたほうがいい。
- ・さん→今、外来種とよばれている動物は人間が外国から連れてきた生き物だから、外来種は悪くないと思いました。
- ・さん→外来種が悪いわけじゃないのに、外来種が悪いみたいになされてかわいそうだなと思った。明日の堆肥作りは今日の勉強を思い出しながらやろうと思った。

ザリガニ堆肥作り

11月14日(火)天気:雪

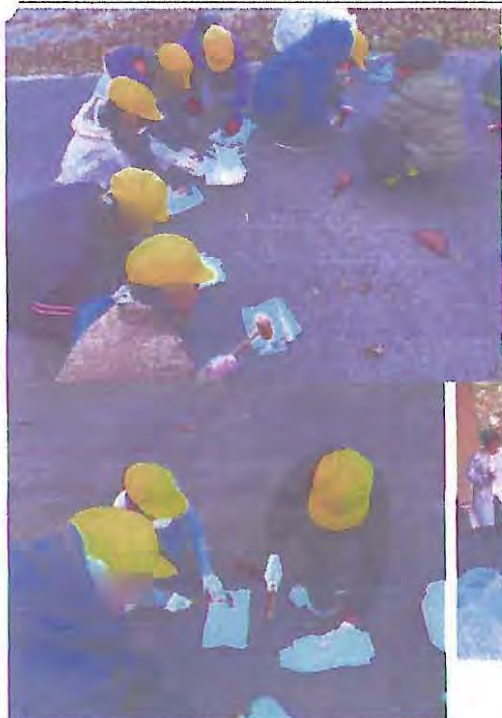
雪やあられがちらつく中、ウチダザリガニを砕き、米ぬかやくん炭に混ぜ発酵をさせ、肥料に変えていきます。今回はザリガニを砕き、混ぜるところまで行いました。自分の手で実際に潰すことは初めてだったことでしょう。次の命につなげるための活動という意識をもって活動したのかなと思います。

道徳「タマゾン川」



11月17日(金)道徳

そして、道徳です。今週の学習の「まとめ」として行った今回。自分たちの身の回りの機関庫の川でのことが東京の多摩川でも起こっていることを知り、外来種や在来種での自分の考えを聞いてもらいました。子どもたちの考えは裏面に紹介しま



SMILE

NO 35
担任

ザリガニ堆肥の続き…。



11月20日(月) 中休み

先週まぜたザリガニを、今週はクラスごとに当番を決め、「切り返し」の作業をしました。発酵が進んでいるザリガニ堆肥は、想像以上の匂いを発します。匂いに負けず、作業する さん、 さん、 さん、 さん、 さんは本当に立派でした。来週 30 日(木)にもう一度 2 組の担当日があります。どんな変化をしているか、じっくり観察しましょう。

30 日(木)担当: さん、 さん、 さん、 さん、 さん、 さん。

む、難しい…。



リレーの走る順序を決めます。
走る順序は、何通りありますか。

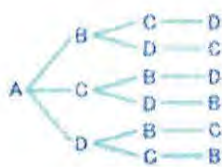


くま、うさぎ、しか、ペンギンの4チームが試合をします。どのチームも1回ずつあたるようにします。試合の組み合わせを全部書きましょう。

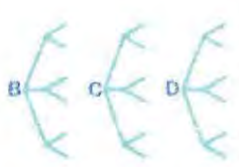


算数の問題

上の問題を今学習しています。担任はこれを高校生で習った記憶がありますが、今は 6 年生で学習しています。違いわかりますか？順序は「並び方」になり、組み合わせは「重なりがない」ように考えることが大切です。考え方として…。



樹形図

組み合わせ
の数を数える
方法です。

	くま	うさぎ	しか	ペンギン
くま				
うさぎ				
しか				
ペンギン				

D	4	A
3	5	1
C	2	B

左の場合

樹形図を書いて考えると整理して考えやすいですね。一人ずつ固定していき、1 番目、2 番目、3 番目…と丁寧にやっていくことが近道かもしれません。

右の場合

対戦表や四角形のような図(2 組では魔法陣と呼んでいます)を書くと考えやすいですね。組み合わせは、「重なっていないかな」と言うことが大切です。

外来種は在来種と同じように命があって人間が自分勝手に川に逃がして外来種が見つかる悪いもの扱いされるのはやめたほうがいいと思うけど外来種は在来種に被害を及ぼすからできるだけ駆除していきたいと思いました。

外来種の生物を放した人が悪いと思った。でも在来種のすみかや食べ物が取られたりすると、在来種がいなくなってしまうからできるだけ駆除したほうがいいと思う。2年生のときは何も考えずにウチダザリガニを捕まえていたけどウチダザリガニを捕まえていたのは、駆除のためだったんだなと思った。

外来種は、いたくて、日本にいるわけじゃないし、放した人が悪くて「飼おう!」と思ったならちゃんと最後まで飼ってあげなきゃ外来種にも命があるから可哀想だし、日本にいる在来種にも迷惑がかかるから最初から飼わないでほしい。

外来種は来たくて来たわけじゃないけど駆除しなきゃ在来種とかが絶滅するかもしれないから見つけたら駆除しようと思いました。外来種を飼うなら最後まで飼ってほしいなと思いました。

外来種にも命があって外来種を殺す人間にも命があること。動物のことを何も思っていないやつが外国の動物を連れてきて、育てることがめんどくなったらそこらへんに捨てるということになると少し外来種はかわいそうだなと思いました。同じ命あるものを殺すのもやだから、ちゃんと責任もって飼ってほしいなとおもいました。

外来種は日本の生態系には良くないという理由で駆除されているけど、殺さずアメリカとか、元いたところに帰れるようになったらいいと思った。

どんな生き物を飼うにしても、最後まで責任を持って育てることが大切ということがわかった。

外来種は人間が持ってきただけで、きたくてきた訳じゃないから差別されているのが可愛そうだなと思いました。たしかに外来種は在来種を減らしてしまうけど、その原因を作ったのは人間なので人間のほうが罪が重いと思いました

外来種はいろんな悪いことをするけどそれは人間のせいで起きていることだからとても可哀想だし、外来種にも命があるんだと改めて思いました。

在来種もいなくなってしまうから、駆除はしないといけない。だから生き物は最後までしっかり面倒を見ることがいちばん大切だと思った。

たしかに外来種は日本の在来種や生態系を壊したり、倒したりしてしまうけどこれは全部人間に持ってこられて、放されて生きるためにしてしまったことだから外来種が全部悪いとは言わないけど、こうなったのは自分勝手な飼い主に飼われたのが運の尽きだったんだな〜と、思いながら可愛そうだけど潰して混ぜて良い肥料になってねー。

外来種は来たくて来たわけじゃないのに川や海に放されて外来種は在来種のすみかを奪ったり食べ物の奪い合いだったり、在来種を食べたりして食物連鎖の関係が崩れて日本に在来種がいなくなってしまうかもしれないし日本に外来種しかなくなるかもしれないし人間がやったことだから嫌だけど外来種を駆除してほしいなと思いました。そして外来種を飼ったら最後まで面倒を見てほしいなと思いました。

外来種は、悪いやつだと思っていたけど、本当は、人間が自分勝手に持ち込まれて勝手に悪い物にされて、おかしい。でも、ほっといたら在来種もいなくなってしまう、日本が外国になってしまうから、悲しいけど、駆除しないとならない。悲しい限りだねー、人に持ち込まれて、悪いもの扱いされて。ザリガニ堆肥をして少し気持ちわるかったけど、楽しいこともあり、混ぜるのが楽しかった。だからこれからもし、外来種がいたら、悲しいけど駆除しないといけないと思いました。

外来種は来たくて来たわけじゃないのに悪者扱いされて可哀想だと思いました。あと外来種の生物を飼うならば最後まで面倒を見て日本の川や海に放さないでほしいと思いました。

外来種は外来種で悪いと思うけど外来種が日本で悪さするきっかけを作ったのは人間。外来種が在来種に被害を出すのは事実だけど放したり最後まで責任を持って育てない人間の方が罪は重いと思いました。

日本の在来種は日本に元々いる種類の生き物で日本にとって必要だったり大切だったりするように外来種も元々は日本とは違うアメリカやイギリスの自分にとって過ごしやすいところで暮らしててから本来はその場所で必要とされたり大切にされてたりするのに知らない人の勝手な事情で放されて急に殺されちゃうのは可愛そうだなと思いました。命を飼うって決めたのなら最後までしっかり面倒を見てほしいなと思いました。

外来種は何も悪い事してないにも関わらず邪魔者扱いされて本当に可哀想。在来種だっていきなり川に肉食魚が来て食べられてしまわれる。他の国の生き物を輸入してはいけない法律もあるのにインターネットでクリック一つで輸入できてしまうのが辛い。死んだあとの処理も含めてそのような事をしないことが大切だと思いました。

外来種の存在は悪いものだとされているけど、元々は外国に住んでいた在来種であって、人間の手によって持ち込まれた生き物だし、はっきり言って悪いのは持ち込んだ人間だから、私的には外来種が完全に悪いとは言い切れないなと思った。ザリガニ堆肥を作ったときは罪悪感があった。

外来種は、在来種とかに影響を及ぼすけど本当は放した人間が悪いということがわかったし、好きで来たわけじゃないのに駆除されるのはかわいそうだとおもいました。ペットとして買うなら外来種が死ぬまで面倒見たほうがいいと思う。

外来種も在来種と同じ位の存在なのに川とかに捨てられて川にいただけで悪者扱いを受けていて可哀想だと思いました。そして、動物を飼う、育てると決めたら最後までやらないとだめだと改めてわかりました。

外来種は、在来種を食べてしまうけど外来種がすごく悪いんじゃなくて人間の「もういらないから、育てられないから」という人間の都合だけでそこら辺に放したりする人間が悪いと思う。他の人と同じで勝手に持ち込まれ、勝手に厄介者扱いされ、駆除される。っていうのが良くないと思った。だから飼ってしまったら最後まで飼わなきゃいけないと思った。

外来種にも命があること。外来種が在来種に被害を及ぼすのは外来種だけが責任があるわけじゃなくて、そういう外来種を放してしまった人間にも責任があると思った。

在来種と外来種はどちらも同じ命なのに、どうして外来種と在来種はこんなに差別されているんだと思いました。そもそも、外来種を放す人間が悪くて、外来種は悪くないのに放した人は怒られずに、放された外来種は悪者扱いされたり、駆除されているんだと思いました。だから外来種をペットとして飼うなら、最後まで面倒を見ることが大切だと思いました。

外来種は悪いんだけど人間の活動によって連れてこられたから外来種は生きるためにやっているから外来種は悪くわないとは行かずに駆除しないと行けない状況にあるから自分は駆除していきたいと思っている

外来種は来なくて来た訳では無いし、かといって放置したら日本の生態系が壊れて在来種が減り絶滅するかもしれないし、駆除をするとしても元は人間のせいだから次に活かすや次につなげようという気持ちで駆除をしようと思いました。飼うならば最後まで責任を持って飼いたいと思いました。

外来種は自分が好きで日本に来たわけじゃなくて人間のせいで日本に来たのに悪者扱いされていて可愛そうだなと思ったけれども外来種がいると在来種のえさやすみかなくなったり食物連鎖がくずれてしまったりしてしまって自然のバランスが崩れてしまったりか外来種も命があるから可愛そうだと思った。

外来種はほぼ人の手によって連れてこられたり、捨てられてしまったものが多いから、それなら連れてきたり捨てるんじゃないで、そもそも飼うとしたら、最後までかう自信があるなら大切に最後まで面倒見てほしいなと思いました。

外来種は在来種のすみかを奪ったり、食べたりして、外来種は悪者だと思いました。でも、外来種は人間によってきたし自分の意思できたわけではないので在来種と同じでちゃんと生きているからたとえ駆除をしても別のものに変え命もそのまま大切にしようと思いました。

外来種が何も知らないで連れてこられて駆除されるということがとても可哀想だと思いました。在来種が外来種に食べられて生態系が崩れていくということがいつかもとに戻るといいなと思います。

確かに外来種は在来種に良くないことをしているけど、それは人間が持ち込んでいたりしているせいなので、外来種に悪気はないと思いました。

誰かが外来種を川に捨てて外来種が悪者扱いされるのも可愛そうだったし、その外来種が日本の在来種を食べてしまうことも良くないと思った。そして、その外来種に在来種が食べられてしまって、日本の在来種がいなくなってしまうたら大変だから、とても日本の川に外来種を捨てないでほしいと思った。

外来種は悪いイメージがあったけど、全ては人間側が悪いということがわかった。外来種が在来種に影響を及ぼすのも、外来種ではなく、人間に責任があると思った。外来種をペットとして飼うことは悪くないけど、その外来種を捨てるということは許されないことだと思った。もし自分が外来種をペットとして飼うことになったら、最後まで面倒を見る。

外来種は何も悪いことしてないにも関わらず邪魔者扱いされて本当に可哀想。在来種だっていきなり川に肉食魚が来て食べられてしまわれる。他の国の生き物を輸入してはいけない法律もあるのにインターネットでクリック一つで輸入できてしまうのが辛い。死んだあとの処理も含めてそのような事をしないことが大切だと思いました。

他の国の生き物を、違う国に持ってくる時点でおかしいと思う。その国の在来種だけで食物連鎖が成り立っているのに、外来種を勝手に連れ込んで食物連鎖の輪を壊すのはいけないと思った。そもそも命の大きさはどの生き物も一緒なのに、他の国に勝手に連れてこられて勝手に差別されて駆除されるのはおかしい。だけれど、このまま放っておくと

ザリガニたい肥作り

豊成小学校では、下級生が川の学習で捕獲したウチダザリガニを6年生がたい肥にする活動を行っています。伝統行事の1つといっても過言ではないでしょう。たい肥作りの作業は1日で終わりではなく、しばらくは交代で作業を行います。大変ですが、6年生として自覚をもって活動してほしいと思います。

6年生の行動を見ていると、人に言われなくても動ける子どもが増えてきたと感じます。今回のザリガニたい肥作りもそうでしたが、集会活動や出前授業などの後片付けを率先して行っています。考えてみれば、夏休みの花壇の雑草抜きも自分の学級だけでなく、他の学年の花壇の雑草も抜いていましたね。当の本人たちは当たり前だと思っているのかもしれませんが、こういうことって意外とできなかったりします。最近では私から指示をすることがほとんどなくなりました。5年生から1年半ちょっと経ちましたが、成長したことの一つですね。



だいすき

豊成小学校 1 年 1 組学級通信

令和 6 年 2 月 1 6 日 (金)

NO.39

冬の川を見に行こう！！



14日(水)、冬の川を見にいきました。行く前に、冬の川はどうなっているのかを、みんなで予想しました。

1. 川の流れは速くなっているかもしれない。
2. 凍っているかもしれない。
3. 川の水の量は、多くなっているかもしれない。
4. 川の温度(水温)は、低くなっている。
5. 生き物は探すことはできないけれど、どこにいるのかを想像しながら見てくる。

今週は、暖かい日が続いていたので、川の水はしっかり流れていました。雪を入れて流れていく速さを確認したり、温度を想像したりしながら、楽しく観察することができました。4時間目には、学習のまとめをしました。予想と比べてどうだったのかを考えながら、まとめをすることができました。

自分で考えたことを文章に表す力がとてもついてきたことを感じました。

夏の川の学習の時にお休みしていた子もそうでなかった子も、「2年生になったら、川の学習が楽しみ！」と話していました。本当に楽しみです。

2月20日(火)は、1年生最後の参観日です。4月に入学してから、早くも11ヵ月が過ぎようとしています。子どもの1年の成長は、素晴らしいですね。いろいろなことができるようになったところを、ぜひ見に来ていただければと思います。お忙しいと思いますが、どうぞよろしくお願いします。

あひさま

豊成小1年2組 学級通信 令和6年2月16日 NO. 34

冬の川を見に行ってきました！

2月14日（水）、生活の時間に冬の機関庫川の様子を見に行ってきました。水は流れているのか、凍っているのか、川の周りの景色はどうなっているのか、夏の川の様子と比べてどのように変わっているのかを、教室で予想して、観察してきました。



教室に戻ってから、振り返りの絵日記を書きました。「川は流れているから凍っていない」「日陰は凍っている場所もあった」「周りの草は茶色になっていた」「夏の川より、水が透明できれいだった」など、的を射た、様々な感想を書くことができていました。中には、「よく見たら魚がいた」と書いている子も(*'ω'*)「またみんなで川を見に行きたい」と書いていた子も多かったです。川についていろいろ勉強できた1時間でした。

外遊びしています♪

スケート学習が終了して、休み時間にグラウンドで遊ぶことができるようになりました。授業に遅れないように時間を意識しながら、元気に遊んでいます！





Sunny!

太陽のように

光り輝く、

元気いっぱい

クラス☆

令和6年 2月16日 No.36 文責

閉鎖明け後の難関…「かけ算の筆算」

先週は体調不良の子が多く、木曜日から学級閉鎖となっていました。お忙しい中対応してくださった皆様、ありがとうございました。

教室の様子はやや落ち着いてきましたが、全校的にも調子を崩している子が多く、引き続き予防対策が大切です。

さて、算数では「かけ算

の筆算（かける数が二けた）」の学習が始まりました。三年生の算数の中でも難易度が高い単元です。確実に身に付けるために、くり上がりの補助計算の書き方を全クラスで統一して指導していますので、ご家庭でアドバイスする際は上記の資料を基にお願いします（くり上がりを書く位置や方法に明確な決まりはなく、参考書や学習塾などとは異なるかもしれません）。教科書よりも細かいステップに分けた問題を留意し、一つずつ確認しながら丁寧に指導をしています。

2けた×2けたのくり上がり

- ・かけくり、たしくりの2つがある
- ・かけくりはマスの右上
- ・たしくりは線に直下
- ※もとの数字より小さく書く！

$$\begin{array}{r} 13 \\ \times 75 \\ \hline 65 \\ 91 \\ \hline 975 \end{array}$$

かけ
かけくり

$$\begin{array}{r} 18 \\ \times 45 \\ \hline 90 \\ 72 \\ \hline 810 \end{array}$$

かけ
かけくり

$$\begin{array}{r} 39 \\ \times 75 \\ \hline 195 \\ 273 \\ \hline 2925 \end{array}$$

たし
たしくり

かけ
かけくり
たし
たしくり

ゆたか 保育所での発表

15日（木）のゆたかの時間に、豊成保育所の年長クラスの子どもたちに向けた紙芝居の発表やポスターの受け渡しを行いました。2組からは① さん、 さん、 さん、 さん、② さん、 さん、 さん、 さん、③ さん、 さん、 さん、④ さんが参加しました（事前にお知らせしておらず、すみません）。川の環境保全の大切さを一生懸命発表し、保育園の子どもたちも真剣に聞いてくれました。学んだことを広く伝える、貴重な経験となりました。



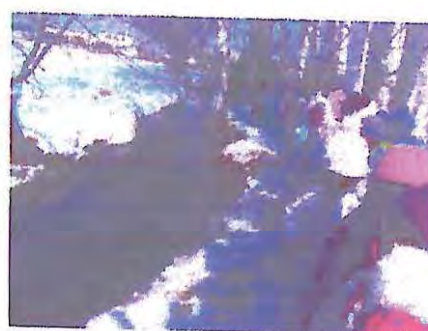
げんきいっぱい！

～やるきいっぱい やさしさいっぱい～

豊成小学校 1年3組 学級通信 令和6年2月16日 No.42

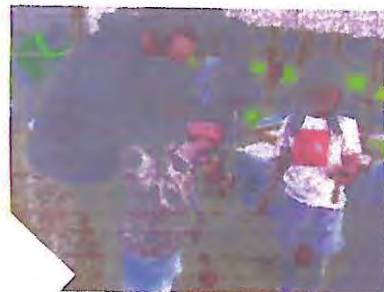
冬の川を見に行ったよ！

14日(水)に冬の川を見に行きました。行く前に「川は凍っていると思う。」「凍ってない。」と予想と立てていました。そして、夏の川との違いを探すことを確認して見に行きました。実際に見てみると、川は流れがあり、凍っていないことがわかりました。「川の水の量も多くなっていた。」「夏に比べて、生き物がいない気がする。」「冬の間は、ザリガニや魚はどうやって過ごしているのか。」と疑問に思う子もいたようです。川の観察をした後には、絵日記でまとめました。予想はどうだったか、川を見て思ったこと、夏の川との違いについて、自分の考えをまとめながら書くことができました。書く力がついてきたなあと感じています。成長しましたね。



昔遊びをしました！

先週ですが、生活科の時間に「昔遊び」をしました。こま、けん玉、はごいた、だるま落とし、お手玉、ヨーヨー、竹わり、竹とんぼで遊んでみました。コマは、保育園や幼稚園でやったことがあったようで、上手に回せる子もいて、びっくりです。どの遊びも、みんな楽しく遊ぶことができました。今も昔も遊びを楽しむ子どもの姿は変わらないですね。



こまは男の子、お手玉は女の子に人気がありましたよ！

ほっと



発行日:令和6年3月12日 439

冬の機関庫の川



先週、みんなで冬の機関庫の川を見に行く時間がありました。どんな様子だったか振り返ると、「川の幅が夏より狭くなっていた気がする。」「川の端は凍っているのに、真ん中あたりは流れていて不思議だった。」「川の中にザリガニや魚が見えて、生きているんだとびっくりした。」など、気が付いたことがたくさんあったようです。なぜ夏とは違うのか、冬の川の不思議なことを探して考えるきっかけになり、3年生での川学習に繋がればと思います。



☆おびひろ市民学ファイルのコメントや子どもたちへの手紙にご協力いただきありがとうございました！

☆今週から少しずつ学校に置いていた持ち物をもち帰ります。大き目の袋などのご準備をよろしくお願いします。

子どもたち、3年生に向けてはいきりモードです！



もっと

わくわくきらりん



やる気 こん気 おもいやり

豊成小学校 2年1組 学級通信 令和6年3月13日 NO. 46

冬の川を見に行きました！



生活科で冬の川を見に行きました。見に行ったらすぐに、魚が素早く泳いでいくのが見えました。冷たい冬の川でも生き物たちは元気に生きていることがわかり興奮していました。他にも、「氷がトンネルみたいだったよ。」「ちょろちょろと音が聞こえたよ。」「静かな音のところもあれば、石に当たって大きい音になっているところもあったよ。」などと、たくさんのことを感じ、発見していました。機関庫の川が大好きな子どもたち。3年生では、総合的な学習の時間にもっとたくさんの時間を使って川の学習に取り組む予定です。楽しみですね！(*^-^*)

助成番号	助成事業名	学校名
2023-7214-006	機関庫の川から学ぶ 自分達の生活と自然環境とのつながり	帯広市立豊成小学校
助成事業の主な実施箇所	主な実施箇所	
	※環境学習を数カ所で行っている場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。 ※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。 (縮尺は1/50万～1/100万程度) ※活動場所が「子どもの水辺」、「水辺の楽校」に指定されている場合には、指定場所と名称を記載してください。  ★「機関庫の川」は校地内。  ★「札内川」は4年生のバス学習で実施。	